平成 26 年度　事業報告書

公益財団法人浜松地域イノベーション推進機構

平成 27 年 6 月

目　　次

平成 26 年度事業報告に当たって・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 4

平成 26 年度事業報告書における事業の体系（記載順）について・・・ P 8

平成 26 年度事業の主な成果指標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 9

平成 26 年度事業報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 13

１　【知る】情報発信・分析

１　広報事業（情報分析・展開事業含む）　・・・・・・・・・・・《市委託》・・ P 13

２　【解く】相談・コンシェルジュ

２　相談事業（専門家派遣事業含む）・・・・・・・・・・・・・・《市委託》・・ P 15

３　研究会推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・・《地域企業から受託》・・ P 16

４　産学官連携推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・《市委託》・・ P 18

３　【学ぶ】人材育成支援

５　人材育成事業

（１）新素材技術講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・《市委託》・・ P 20

（２）製造中核人材育成事業・・・・・・・・・・・・・・・・・《市委託》・・ P 21

（３）３次元デジタル技術講座・・・・・・・・・・・・・・・・《市委託》・・ P 25

（４）パワーエレクトロニクス技術講座・・・・・・・・・・・・《市委託》・・ P 26

（５）技術経営講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・《市委託》・・ P 27

（６）次世代起業家育成事業、浜松ものづくりマイスター推進事業・・・《市委託》・・ P 29

４　【興す】創業・第二創業支援

６　創業・新事業展開事業

（１）創業支援事業・・・・・・・・・・・・・・・・・《国補助・市委託》・・ P 32

（２）新事業展開プロデュース事業　・・・・・・・・・・・・・《市委託》・・ P 35

（３）起業支援セミナー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・《財団自主》・・ P 36

７　半田山ＴＢＧ活用運営事業・・・・・・・・・・・・・・・・《財団自主》・・ P 37

８　債務保証事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・《財団自主》・・ P 38

５　【活かす】知財総合支援

９　知的財産活用推進事業

（１）知的財産に関する相談事業・・・・・・・・・・・・・・・《市委託》・・ P 40

（２）知的財産活用講演会・講習会・・・・・・・・・・・・・・《市委託》・・ P 41

（３）特許等出願支援補助金・・・・・・・・・・・・・・・・・《市委託》・・ P 43

（４）はままつ知財研究会との連携・・・・・・・・・・《他機関から受託》・・ P 44

（５）特許流通支援事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・《県委託》・・ P 44

６　【創る】新事業開発支援

１０　技術開発・新産業創出支援事業
（１）浜松地域ＣＦＲＰ事業化研究会・・・・・・・・・・・・・《市委託》・・　Ｐ46
（２）浜松地域チタン事業化研究会・・・・・・・・・・・・・・《市委託》・・　Ｐ47
（３）浜松地域マグネシウム事業化研究会・・・・・・・・・・《市委託》・・　Ｐ48
（４）浜松地域ウルトラハイテン事業化研究会・・・・・・・・《市委託》・・　Ｐ51
（５）浜松地域パワーエレクトロニクス事業化研究会事業・・・《市委託》・・　Ｐ53
１１　新産業創成事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・《市委託》・・　Ｐ55
１２　次世代環境車推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・・《市委託》・・　Ｐ59
１３　地域イノベーション戦略推進事業・・・・・・・・・・・・《国補助》・・　Ｐ60
１４　国等の研究開発事業化支援事業・・・・・・・・《国補助・財団自主》・・　Ｐ67
１５　浜松地域資源活用研究会・・・・・・・・・・・・・・・・《財団自主》・・　Ｐ69
１６　はままつ次世代光・健康医療産業創出事業支援・・・・・《財団自主》・・　Ｐ71
１７　次世代技術調査事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・《財団自主》・・　Ｐ72
１８　地域産業活性化補助金交付事業・・・・・・・・・・・・《財団自主》・・　Ｐ74

７　【拓く】販路開拓支援

１９　ものづくり販路開拓支援事業・・・・・・・・・・・・・・《市委託》・・　Ｐ77
２０　浜松地域販路開拓・マッチング支援事業・・・・・・・・《財団自主》・・　Ｐ78
２１　地場産業振興事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・《財団自主》・・　Ｐ79

参考資料

財団の運営

１　基本財産及び基金　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ82
２　役員及び委員　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ83
３　会議　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ85
４　研究会推進事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ88
５　賛助会員　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ89
６　事務局体制　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ90

平成 26 年度事業報告に当たって

【概要】

平成 26 年度の我が国経済は、アベノミクスの推進により企業マインドが改善し、有効求人倍率が 22 年ぶりの高水準に、また企業の経常利益も過去最高水準に達するなど、緩やかな回復基調にありました。一方で、消費税率の引き上げや夏の天候不順、輸入物価の上昇などが、個人消費や地方中小企業の持ち直しに影響を及ぼしたと見られています。

静岡県内の景気も、年度の後半には消費・生産・雇用とも緩やかな回復基調が続きました。県内上場企業全体の 3 月期決算は、売上高を 3 年連続で伸ばしたものの、国内市場の低迷や円安などにより企業ごとの明暗が分かれ、全体では 3 年ぶりの営業減益となりました。しかしながら、来年平成 28 年 3 月期には国内市場の回復によりリーマンショック以降の最高益の更新が見込まれています。

西部地域の中小製造業においては、業況判断指数（DI）が平成 26 年 1～3 月期をピークに横ばいで推移しており、地域全体としては、景気回復に力強さが見られず、依然として厳しい足踏み状態にあります。

こうした中、当財団では、平成 24 年 4 月の公益財団法人への移行から 3 年が経過し、地域の総合的な産業支援機関として、浜松市の「はままつ産業イノベーション構想」に基づく委託事業や、広域連携で取り組む「浜松・東三河ライフフォトニクスイノベーション」事業、経済産業省サポイン事業の事業管理機関としてのサポートなどを通じて、中小企業の経営資源の強化や新規事業展開に積極的に取り組んでまいりました。

特に、「浜松・東三河ライフフォトニクスイノベーション」事業につきましては、平成 26 年度にプログラム開始から 3 年目を迎えましたが、文部科学省の中間評価において「B 評価」という非常に厳しい評価を受けました。残された 2 年の事業期間には、国際競争力の高い事業化ユニットに資源を集中し、事業化・自立化に全力を傾注していく覚悟であります。

また、平成 27 年 2 月には「静岡県産業成長戦略」が策定され、4 月には「産業戦略推進センター オープンイノベーション静岡」が設置されました。地域経済を牽引する中堅企業の育成を目指しており、当財団としても県西部地域における産業支援機関としての役割を担い、成長戦略の実現に向けて連携を強化してまいります。

さらに、平成 27 年度には、浜松市の「はままつ産業イノベーション構想」の改訂が予定されております。当財団では新構想の検討に呼応して、新たな支援策をいち早く具体化すべく、浜松市と一体となって新規事業の企画・立案に取り組んでまいります。

迎える平成 27 年度は、当財団におきましては、①経営や技術の革新による事業化支援、②「浜松・東三河ライフフォトニクスイノベーション」事業の着実な推進、③「静岡県産業成長戦略」への対応を、財団事業の 3 本柱として、「攻めの姿勢」と「未来志向」で取り組んでまいります。

景気の回復基調にあるとはいえ、本地域の中小企業を取り巻く環境は非常に厳しい状況にあります。地域経済の活性化こそ日本経済再生の原動力であり、国の成長戦略や地方創生と連携した取り組みを進めてまいります。総合的な産業支援機関として、地域企業のニーズに的確に対応し、「お客様の喜ぶ顔を見る」ことを目標として、引き続き、職員一丸となって取り組んでまいります。

【事業総括】

平成 26 年度の実施事業は、本報告書に後述するとおりでありますが、浜松市からの委託事業をはじめ各々の事業を概ね計画通り実施し、実施内容や成果指標に記載した実績を上げることができました。主な事業の実施状況について以下のとおりです。

⑴ホームページ、メールマガジン等による情報発信事業

財団ホームページにおいて国・県の補助金制度等の紹介ページを改修し、ホームページへのアクセス件数（52,787 件）を大幅に増やすことができました。また、メールマガジンの配信先（1,718 件）についても、多くの新規登録者を獲得し、本委託事業を含む幅広い産業支援情報のタイムリーな発信に努めてまいりました。

⑵人材育成事業

全体で 36 講座を開催し、延べ 906 社から、1,519 人の参加を得ました。特に、「製造中核人材育成事業」については、講座内容、講師等の充実を図るとともに、講座の内容に沿ったフォーローアップ講座・セミナー、企業視察会等を多数開催しました。

各講座の受講者アンケートの結果からも、満足度の平均が 96%に達することができました。

⑶知的財産活用推進事業

知財コーディネーターと知財総合窓口支援担当（特許庁事業）が連携して延べ 683 件の相談に応じ、出願件数は、特許 13 件、意匠 5 件、商標 19 件でした。加えて、特許出願支援補助金の交付を通じ、国内・海外の各 6 件の特許出願を支援しました。このほか、知財活用講演会、講習会を開催し、知財に関する法制度の理解や、企業活動における知財活用の啓蒙・啓発を図ってまいりました。

⑷創業支援事業

「創業支援事業計画」「創業支援事業者補助金」の国の採択を受けて、平成 26 年 9 月から本格的な創業支援事業をスタートしました。専任の創業支援コーディネーターを採用し、常設の「創業支援相談窓口」を開設するとともに、創業支援セミナーや創業・新事業展開サロンを開催しました。本事業の支援を通じて半年で 6 件の創業者が誕生しました。

⑸事業化研究会事業

CFRP、チタン、マグネシウム、ウルトラハイテンの 4 つの新素材・新成形技術事業化研究会とパワーエレクトロニクス事業化研究会を実施し、合計 142 社が参加しました。CFRP 研究会では、平成 25 年度に製作した UD テープ製造装置を用いて、UD テープの製造と成形実習を行いました。マグネシウム研究会では、車椅子プロジェクトが製作した「世界最軽量車椅子」が「グッドデザイン賞 2014」の「ベスト 100・未来ものづくり大賞」を受賞しました。参加企業においては、こうした技術の習得に基づく製品や試作が新たな受注に繋がり始めています。

⑹ものづくり販路開拓支援事業

中小企業の自社製品・技術の販路開拓を目的として国内・海外で開催される各種展示商談会へ出展する企業に対して、資金助成や助言等の支援を行いました。展示会補助金については、国内・海外とも 2 度の募集を行い、国内 28 社（商談成立件数 25 件）、海外 3 社（商談成立件数 4 件）の出展を支援しました。

⑺浜松地域販路開拓・マッチング支援事業

浜松商工会議所と連携し、平成 26 年 8 月に㈱本田技術研究所（栃木県）にて、地域中小企業の新技術・新工法を提案する展示商談会を実施しました。48 社が出展し、8 社が見積

り依頼を受け、1 社が 5 件の取引を成立させることができました。取引成立に至らなかった企業（18 社）からも、一定の成果が得られたとの評価をいただきました。

⑻国等の研究開発事業化支援事業

戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン）等、国の競争的資金を浜松地域の中小企業が積極的に活用できるよう、情報発信、セミナー、個別相談、提案書の作成支援等を行ってきました。この結果、サポインについては、当財団が提案した中から、平成 25 年度の 2 件に続いて、平成 26 年度も 3 件の新規採択を受けることができました。いずれも静岡県内での採択の全数であり、事業管理機関として国の資金を活用した中小企業の技術開発や事業化の支援を行うことができました。

⑼地域イノベーション戦略推進事業（浜松・東三河ライフフォトニクスイノベーション）

文部科学省の採択を受けた「地域イノベーション戦略支援プログラム」を推進し、光エネルギーなど 4 つの戦略分野における事業化の支援に取り組みました。平成 27 年 3 月末時点で 24 件の事業化候補（ユニット）を形成し、地域連携コーディネーターが、製品開発やマッチング、販路の開拓などきめ細かく支援してきました。このほか、事業化検討セミナー（36 回）、展示会出展支援（10 回）、コーディネーター研修会、ドイツ・フラウンホーファー研究所による光技術関連セミナー、長期的教育システム研究として算数競技会「MATH やらまいか」や宇宙飛行士 山崎直子氏を招いて教育シンポジウム等を開催しました。

平成 27 年度に向けては、本年 2 月に策定した平成 27 年度事業計画に記載の通り、新たに「デザインマネジメント事業」「国際標準化・規格認証取得事業」「競争的資金等獲得支援事業」「海外ビジネス展開支援事業」などに取り組むとともに、軽量化用新素材として「ファインセラミックス事業化研究会」の立ち上げ準備などに着手してまいります。また「創業支援窓口」を浜松商工会議所会館の 1 階に移転し「起業家カフェ」として整備することなどにより、事業成果の一層の拡大に努めてまいります。

【決算総括】

平成 26 年度の経常費用（事業規模）は、5 億 7,609 万円で、前年度の 5 億 1,559 万円に比して、6,050 万円、11.7%の増額となりました。主な事業支出は、浜松市からの委託事業 2 億 390 万円、地域イノベーション戦略 1 億 9,384 万円、サポインの事業管理機関としての支出 1 億 3,423 万円などです。浜松市委託事業とサポインがそれぞれ増額になりました。

これに対し、経常収益は 5 億 7,719 万円で、前年度の 4 億 9,791 万円に比して、7,927 万円、15.9%の増額になりました。経常費用と同じく、浜松市からの委託事業とサポイン事業の国からの収入を前年度以上に確保することができました。

この結果、当期経常増減額は 109 万円の黒字となり、前年度の▲1,767 万円（求償権の償却▲927 万円を含む）から大きく改善いたしました。

一方、経常外費用としては、半田山の事務所棟、TBG 棟について、不動産鑑定評価額に基づく減損損失▲5,779 万円を計上しました。本件は、時価が帳簿価額を著しく下回った際に必要な会計処理によるものです。これにより、経常増減額と経常外増減額を合わせた当期一般正味財産増減額は▲5,670 万円となりました。

なお、半田山の事務所棟については、平成 27 年 4 月 1 日付で敷地の所有者である浜松市に寄附しました。今後、TBG 棟についても、隣接する常葉大学と一緒に解体等の処分を進める予定です。負の資産については維持管理費等のスリム化を図り、事業に集中する体制を整えてまいります。

平成 26 年度は、全事業について「事業工程表」を作成することにより、各事業の進捗状況、予算の執行状況を毎月確認し、事業の遅れなどその時々の課題等をチェックすることで、従来に比べてきめ細かな事業管理、予算管理を行ってきました。引き続き、公益財団法人として、また静岡県、浜松市の外郭団体として、適正かつ健全な財政運営に努めてまいります。

平成 26 年度事業報告書における事業の体系（記載順）について

事業計画書と事業報告書の体系の照合

平成26年度事業計画書の事業体系（平成26年2月理事会提出）	
公益目的事業Ⅰ	
A	情報収集・発信、相談事業
B	人材育成、創業・新事業展開支援
C	研究・技術開発、事業化支援
D	債務保証事業
E	高度技術振興事業
F	地域産業活性化事業

支援の流れに沿った事業体系（本事業報告書の説明順）	
1	【知る】情報発信・分析
2	【解く】コンシェルジュ・相談
3	【学ぶ】人材育成支援
4	【興す】創業・第二創業支援
5	【活かす】知財活用支援
6	【創る】新事業開発支援
7	【拓く】販路開拓支援

	事業項目	旧体系（計画）
1	広報事業	A
2	相談事業	A
3	研究会推進事業	A
4	産学官連携推進事業	A
5	人材育成事業	B
(1)	新素材技術講座	B
(2)	製造中核人材育成事業	B
(3)	3 次元デジタル技術講座	B
(4)	パワーエレクトロニクス技術講座	B
(5)	技術経営講座	B
(6)	ア 次世代起業家育成事業	B
	イ 浜松ものづくりマイスター推進事業	B
6	創業・新事業展開事業	B
(1)	創業支援事業	—
(2)	新事業展開プロデュース事業	B
(3)	起業支援セミナー	B
7	半田山 TBG 活用運営事業	B
8	債務保証事業	D
9	知的財産活用推進事業	B
(1)	知的財産に関する相談事業	B
(2)	知的財産活用講演会・講習会	B
(3)	特許等出願支援補助金	B
(4)	はままつ知財研究会との連携	B
(5)	特許流通支援事業	B
10	技術開発・新産業創出支援事業	C
(1)	浜松地域CFRP事業化研究会	C
(2)	浜松地域チタン事業化研究会	C
(3)	浜松地域マグネシウム事業化研究会	C
(4)	浜松地域ウルトラハイテン事業化研究会	C
(5)	浜松地域パワーエレクトロニクス事業化研究会事業	C
11	新産業創成事業	C
12	次世代環境車推進事業	C
13	地域イノベーション戦略推進事業	C
14	国等の研究開発事業化支援事業	C
15	浜松地域資源活用研究会	C
16	はままつ次世代光・健康医療産業創出事業支援	C
17	次世代技術調査事業	C
18	地域産業活性化補助金交付事業	C
19	ものづくり販路開拓支援事業	C
20	浜松地域販路開拓・マッチング支援事業	C
21	地場産業振興事業	B

平成２６年度事業の主な成果指標

１　広報事業

項目	実績		目標
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 26 年度
①ホームページアクセス件数※3	― 件 （26,770 件）	52,787 件 （50,009 件）	28,000 件
②メールマガジン配信件数	1,314 件	1,718 件	1,500 件

※①については、平成 26 年度から独自のアクセス分析ツールを採用
（　）内の数値は従来の google analytics によるアクセス分析

２　相談事業

相談項目		H25（件）	対前年比 (H26/H25)	H26（件）
技術相談	技術開発	63	66.6%	42
	人材	7	14.2%	1
	その他	54	83.3%	45
	小計	124	70.9%	88
経営相談	資金	36	111.1%	40
	創業	24	791.6%	190
	販路開拓	211	93.8%	198
	新事業展開	113	171.6%	194
	海外進出・海外事業展開	208	35.5%	74
	補助金・競争的資金	121	91.7%	111
	広報・宣伝	10	110.0%	11
	法令・専門家派遣等	41	624.3%	256
	事業計画・計画改善	34	20.5%	7
	その他	186	158.0%	294
	小計	984	138.4%	1,375
知財相談	技術移転	7	157.1%	11
	特許	336	73.2%	246
	実用新案	38	26.3%	10
	意匠	73	72.6%	53
	商標	203	53.2%	108
	ノウハウ	2	450.0%	9
	社内体制	5	20.0%	1
	その他	44	125.0%	55
	小計	708	69.6%	493
相談総件数		1,816	107.7%	1,956

３　人材育成事業

項目	実績		目標
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 26 年度
①新素材技術講座受講者数	平均 10 名	平均 25 名	各 10 名以上
②新素材技術講座受講者満足度	80%	99%	90%以上
③製造中核人材講座受講者数	19 名	26 名	20 名以上
④製造中核人材講座受講者満足度	94%	100%	90%以上
⑤3 次元デジタル技術講座受講者数	― 名	2 名	未設定
⑥パワーエレクトロニクス技術講座参加者	19 名	15 名	15 名
⑦パワーエレクトロニクス技術講座参加者満足度	96%	92 %	85%以上
⑧技術経営講座受講者数	平均 14 名	平均 9 名	平均10名以上
⑨技術経営講座受講者満足度	90%	100 %	90%以上
⑩浜松ものづくりマイスターインターンシップ参加者数	24 名	72 名	15 名
⑪浜松ものづくりマイスターインターンシップ参加者満足度	80%	90%	90%以上

４　創業・新事業展開事業（創業支援事業）

項目（26 年 9 月～27 年 3 月）	実績		目標
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 26 年度
①創業者件数	―	6 件	13 件
②相談件数	―	140 件	175 件

５　知的財産活用推進事業

項目	実績		目標
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 26 年度
①相談対応件数	671 件	683 件	590 件
②国内特許等　申請件数	8 件	18 件	10 件
③国内特許等　採択件数	7 件	6 件	7 件
④海外特許等　申請件数	― 件	12 件	― 件
⑤海外特許等　採択件数	― 件	6 件	― 件

※①は静岡県発明協会の知財総合窓口支援担当による相談件数を含む

※②～⑤は特許等出願支援補助金事業

６　技術開発・新産業創出支援事業

項目	実績		目標
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 26 年度
プロジェクト、部会、WG、分科会			
①浜松地域 CFRP 事業化研究会	2 回	8 回	2 回以上
②浜松地域チタン事業化研究会	0 回	2 回	2 回以上
③浜松地域マグネシウム事業化研究会	7 回	6 回	3 回以上
④浜松地域ウルトラハイテン事業化研究会	3 回	12 回	1 回以上
特許、意匠登録			
①浜松地域チタン事業化研究会	0 件	0 件	3 件（3 年間）
②浜松地域マグネシウム事業化研究会	2 件	0 件	3 件（3 年間）
③浜松地域ウルトラハイテン事業化研究会	0 件	0 件	3 件（3 年間）

７　新産業創成事業（事業化可能性調査費補助金）

項目	実績		目標
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 26 年度
①申請件数	9 件	9 件	10 件
②提案採択件数	4 件	5 件	5 件

８　地域イノベーション戦略推進事業（浜松・東三河ライフフォトニクスイノベーション）

項目	実績		目標
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 26 年度
①特許等出願数	96 件	121 件	162 件
②事業化数	23 件	57 件	40 件

９　国等の研究開発事業化支援事業（「戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン事業）」）

項目	実績		目標
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 26 年度
交付決定額に対する交付確定額の割合	98.7%	97.0%	99.0%

１０　浜松地域資源活用研究会

項目	実績		目標
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 26 年度
①事業化のスタートあるいは補助金獲得	0 件	1 件	1 件以上
②分科会の発足	1 件	2 件	1 件以上

１１　地域産業活性化補助金交付事業

項目	実績		目標
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 26 年度
①申請件数	7 件	5 件	10 件
②提案採択件数	4 件	4 件	4 件

１２　ものづくり販路開拓支援事業

地域	項目	実績（平均値）		目標
		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 26 年度
国内	①出展社数（報告書受）	31 社	28 社	35 社
	②ブース来場者数	155 名	285 名	170 名
	③名刺交換数	64 名	61 名	70 名
	④商談件数	9 件	7 件	10 件
	⑤商談成立件数	7 件	25 件	10 件
海外	①出展社数（報告書受）	4 社	3 社	13 社
	②ブース来場者数	267 名	453 名	293 名
	③名刺交換数	104 名	56 名	114 名
	④商談件数	9 件	6 件	10 件
	⑤商談成立件数	0 件	4 件	3 件

※②～④の実績数字は 1 社平均の数字

１３　浜松地域販路開拓・マッチング支援事業

項目	実績		目標
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 26 年度
①出展社数	―	48 社	50 社
②商談件数（取引成立）	―	5 件	5 件

１４　その他　財団業務全般を通じた成果

項目	実績		目標
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 26 年度
①製品化・事業化につながった相談件数	― 件	23 件	― 件
②マッチングにつながった相談件数	― 件	53 件	― 件
③新規顧客の相談件数（新規顧客相談／全相談）	― 件	152 件（7.7%）	― 件
④新規案件の相談件数（新規案件相談／全相談）	― 件	243 件（12.4%）	― 件

平成２６年度 事業報告書

1【知る】情報発信・分析

1　広報事業

決算額 1,236,066 円（予算額 1,200 千円）＜浜松市＞

【目的】

地域企業、大学・研究機関等の最新の活動内容や国・県・市の補助金等の支援情報などをホームページやメールマガジン等を通じて発信し、地域企業に対して、研究開発や事業化に有益な情報を提供する。また、英語による情報発信を強化し、海外の企業、大学等への発信や連携を図るほか、地域企業の情報や経済・産業動向を収集及び把握し、ニーズに合った支援策の検討に取り組む。

【実施内容】

⑴ホームページ、メールマガジン等による情報発信

ホームページについては、当財団の支援制度や発行物、他地域支援機関の情報を随時発信するとともに、国・県等の補助金制度情報の閲覧ページを新設し、地域企業に有効な支援情報の集約と選別、発信に努めた。

メールマガジンを通じて、当財団をはじめとする公的機関、各種支援機関からの講演会、講習会、補助金などの産業支援情報やお役立ち情報を計 18 回（毎月第１・第３水曜日）配信した。また、掲載の仕方を改善し、見やすく分かりやすい情報発信に取り組むとともに、登録会員の増加に向けて、当財団が事務局を務める研究会や講座における新規登録の呼びかけやメール署名欄へのメルマガ登録広告の掲載等に取り組んだ。年度当初にメルマガ不通者（アドレス無効者等）約 370 名を登録解除したため登録会員数は一旦減少したものの、本年度に多くの新規登録を獲得し、平成 25 年度末の実績値を上回った。

また、財団の支援情報を企業に分かりやすく見える化するため、事業紹介用のパワーポイントや展示パネル、チラシ等発行物を収納した回転型スタンドなどの広報ツール一式を制作してパッケージ化し、展示ブースや視察対応、企業相談等に活用した。

今年度は、新規にソーシャルネットワークであるツイッターとフェイスブックを用いてホームページの新着情報を中心とした広報展開を試行した。ツイッター154 件の投稿に対して、19 アカウントのフォロワーから約 220 件のアクションがあった。また、フェイスブックでは 122 件の投稿に対し、22 アカウントのフォロワーを得た。

⑵浜松地域産業支援ネットワーク会議

地域の７つの産業支援機関からなる「浜松地域産業支援ネットワーク会議」の事務局を担い、中小企業支援等の情報共有や事業連携を推し進めた。

［参加団体］浜松市、浜松商工会議所、㈱浜名湖国際頭脳センター、静岡県中小企業団体中央会西部事務所、静岡大学イノベーション社会連携推進機構、静岡県工業技術研究所浜松工業技術支援センター、(公財)浜松地域イノベーション推進機構

［オブザーバー］(独)中小企業基盤整備機構関東本部浜松イノベーションキューブ、日本貿易振興機構浜松貿易情報センター

⑶調査・分析

平成 25 年度に取得した県西部地域企業の概要データ（帝国データバンク資料約

2,400 企業）と、当財団コーディネーターによる支援の履歴情報を一元管理するデータベース（DB）を 8 月に構築し、9 月下旬より運用を開始した。DB は支援内容に応じた情報整理や分類、検索、入出力機能を備えていることから、地域の支援ニーズを把握するツールとして利用し、地域企業へのより良い支援の実現に努めるとともに、光る強みや特徴を持つ企業等の検索を通じて新規顧客の獲得に取り組んだ。

また、特徴的で優秀な地域企業について、公的表彰の受賞歴を元に一覧表として整理し、財団スタッフで共有かつ随時更新する仕組みを整備した。

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 26 年度
①ホームページアクセス件数※3	― 件 （26,770 件）	52,787 件 （50,009 件）	28,000 件
②メールマガジン配信件数	1,314 件	1,718 件	1,500 件

※①については、平成 26 年度から独自のアクセス分析ツールを採用
（　）内の数値は従来の google analytics によるアクセス分析

【総括】

ホームページについては、サイトへのアクセス元や閲覧ページの解析により、閲覧ニーズにマッチしたページの構造に改修するとともに、国・県等の情報収集を強化し、補助金制度情報の閲覧ページによりタイムリーな発信に努めた。その成果として、12 月末時点で既に平成 25 年度実績及び平成 26 年度目標を大幅に上回り、最終的に年度目標の 2 倍近くに達した。今後も引き続き、地域の産業支援機関との連携を強め、地域企業にとって有効な情報を質・量共に向上させる。

また、財団の支援実績を広く周知すべく、事業紹介用のパワーポイントや展示パネルなどの広報ツールを制作したが、事業・経費両面での効率化のほか、財団として統一見解の取れた情報発信につながった。今後もツールを活用した視覚的な発信・PR を展開するとともに、記者投込を中心としたメディアの積極的な活用に取り組む。

平成 26 年度に構築した企業情報 DB については、下半期の運用を通じて、企業情報の蓄積・分析及び本財団の支援状況の把握において十分な効果があると証明された。今後も引き続きシステム運用を進め、支援ニーズを把握する企業カルテとして利用するとともに、財団成果の見える化と地域企業への発信を見据えた入力データの精度及び素材データ抽出の操作性の向上などに取り組む。

また、特徴的で優秀な地域企業を整理した一覧表については、地域の技術力やものづくり産業の集積を PR するツールとして活用するほか、企業ニーズに適した支援策の検討材料として利用する。

なお、ソーシャルネットワークについては、試行的な広報ながらも一定の成果を得たことから、即時性を活かした有効な広報ツールとして、プラス面（財団を知らない層へのアピールなど）とマイナス面（炎上対策など）を考慮しながら、今後も引き続き試行を続けるとともに、本格運用に向けた検討を進める。

2【解く】相談・コンシェルジュ

2　相談事業

決算額 4,479,902 **円（予算額** 4,500 **千円）＜浜松市＞**

【目的】

経営革新や新事業展開を図ろうとする中小企業等が抱える様々な問題に対して、財団コーディネーターが適切な助言を行うことにより、中小企業等の順調な発展及び成長を促進する。

より専門的なアドバイスや指導が必要となる相談に対しては、財団が設ける専門家派遣制度の登録専門家を派遣し、財団のコーディネーターと連携を図りながら課題の解決に取り組む。

【実施内容】

(1)各種相談

中小企業者や個人事業者等が抱える経営、技術、人材、特許等の種々の課題に対し、経営・技術・知財のコーディネーターが積極的に相談に応じ、企業の目線に立って必要な助言を行った。相談内訳は以下表のとおり。

相談項目		H25（件）	対前年比 (H26/H25)	H26（件）
技術相談	技術開発	63	66.6%	42
	人材	7	14.2%	1
	その他	54	83.3%	45
	小計	124	70.9%	88
経営相談	資金	36	111.1%	40
	創業	24	791.6%	190
	販路開拓	211	93.8%	198
	新事業展開	113	171.6%	194
	海外進出・海外事業展開	208	35.5%	74
	補助金・競争的資金	121	91.7%	111
	広報・宣伝	10	110.0%	11
	法令・専門家派遣等の手続き	41	624.3%	256
	事業計画・計画改善	34	20.5%	7
	その他	186	158.0%	294
	小計	984	138.4%	1,375
知財相談	技術移転	7	157.1%	11
	特許	336	73.2%	246
	実用新案	38	26.3%	10
	意匠	73	72.6%	53
	商標	203	53.2%	108
	ノウハウ	2	450.0%	9
	社内体制	5	20.0%	1
	その他	44	125.0%	55
	小計	708	69.6%	493
相談総件数		1,816	107.7%	1,956

⑵専門家派遣事業

専門性を有する相談に対して、内容に応じて経営・技術・知財の分野区分で登録されている民間の専門家を派遣した。平成 26 年度の派遣実績は以下表のとおり。

分　野	H25		H26	
	対象企業数	派遣回数	対象企業数	派遣回数
経　営	30 社	100 回	29 社	133 回
技　術	2 社	10 回	2 社	10 回
知　財	0 社	0 社	0 社	0 回
合　計	32 社	110 回	31 社（91%）	143 回（130%）

※（ ）内は、対前年比（H26/H25）

【成果指標】

項目（3 段階）	実績（平均値）		目標
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 26 年度
企業数	32 社	31 社	35 社
①専門家の助言内容	2.9	2.8	3.0
②専門家の態度	2.9	2.8	3.0
③専門家とのマッチング	2.8	2.7	2.9
④専門家の助言のわかりやすさ	2.8	2.7	2.9
⑤専門家の助言の進め方	2.8	2.7	2.9
⑥専門家の総合評価　※5 段階	4.5	4.3	4.8

※①～⑥は企業からのアンケート評価。3 段階の最高点は 3、5 段階の最高点は 5。

【総括】

相談事業によって地域の市場動向や中小企業等が抱える課題等を常に最新の状態で把握することができ、それらの情報を活かしながら、地域企業の課題解決のために財団のコーディネーターが日々活動している。平成 26 年度の相談内容としては、経営相談では「創業」「販路開拓」「新事業展開」「法令・専門家派遣等」が多く、知財相談では「特許」「商標」が多い。創業相談に関しては、創業支援事業の開始に伴い、相談者が格段に増えたためである。

また、相談業務の中心を担う専門家派遣事業では、企業数こそ減ったが、派遣費用の見直しを実施した制度改革に伴い、派遣回数は増えている。中小企業からの専門家派遣事業に対する評価は高く、当制度を有効活用しながら地域の中小企業が経営改善でき、経営の安定から新事業の構築まで財団として支援できていると考える。平成 27 年度も引き続き経営コーディネーターを中心とした相談業務で地域企業に対するきめ細かな支援を実施していく。

3　研究会推進事業

決算額 － 円（予算額 － 千円）＜地域企業受託事業＞
※研究会費の 2 割を受けて事務局運営を担う

【目的】

各種研究会の事務局として、総会や幹事会、セミナー、講座等の運営に係る側面支援を行うことにより、企業間の連携・交流を促進する。

【実施内容】

各種研究会において年度総会を開催し、平成 25 年度事業報告及び平成 26 年度事業計画の決定を行うとともに、平成 27 年度事業方針についての検討を第 3 四半期より

始めている。

(1)異業種交流グループ

①TM プラザはままつ

正会員数 33 社（平成 26 年 9 月 30 日現在）

総会（平成 26 年 4 月 8 日開催）

講演会「景気に負けない！中小企業の現状打開・業績アップの３つのポイント」（平成 26 年 4 月 8 日開催）

定例会 長崎視察研修会（平成 26 年 9 月 8~9 日開催）

講演会「職場のハラスメント・こんなときどうする」（平成 26 年 10 月 14 日開催）

定例会「6 色の帽子～会議がサクサクすすむ思考法～」（平成 27 年 2 月 10 日開催）

定例会 森山焼工房見学（平成 27 年 3 月 10 日開催）

②浜松技術交流プラザ 82

正会員数 16 社（平成 26 年 9 月 30 日現在）

総会（平成 26 年 4 月 22 日開催）

講演会「社員の意欲と組織力を高めるポイントとは」（平成 26 年 4 月 22 日開催）

視察会 ㈱HKS（平成 26 年 8 月 26 日開催）

講演会「応募者が殺到する魅力的な会社になるための人事制度改革のポイント」（平成 26 年 12 月 16 日開催）

講演会 「ものづくり企業のイノベーション」(都田アソシエイツと共催)（平成 27 年 1 月 29 日開催）

視察会 ㈱ファナック（ソフトウェア産業振興研究委員会・都田アソシエイツと共催）（平成 27 年 3 月 19 日開催）

③都田アソシエイツ

正会員数 56 社（平成 26 年 9 月 30 日現在）

総会（平成 26 年 7 月 17 日開催）

講演会 「増税後の日本の製造業について」（平成 26 年 7 月 17 日開催）

会員企業視察会 ㈱浜松パルス（平成 26 年 10 月 17 日開催）

会員企業視察会 ローランドディー．ジー.㈱都田事業所（平成 26 年 12 月 4 日開催）

講演会 「ものづくり企業のイノベーション」(浜松技術交流プラザと共催)（平成 27 年 1 月 29 日開催）

企業視察会 ㈱興和 （平成 27 年 2 月 20 日開催）

視察会 ㈱ファナック（ソフトウェア産業振興研究委員会・浜松技術交流プラザ 82 と共催）（平成 27 年 3 月 19 日開催）

(2)成長分野研究会

①VB・VC 研究委員会

正会員数 17 社（平成 26 年 9 月 30 日現在）

総会（平成 26 年 6 月 23 日開催）

講演会「ヒトゲノム解読後の新しい医学・医療の世界～遺伝子医療を中心に」（平成 26 年 6 月 23 日開催）

会員企業視察会 デコラテックジャパン㈱、日星電気㈱（平成 26 年 9 月 18 日開催）

会員企業視察会 神谷理研㈱、新日本特機㈱（平成 26 年 11 月 18 日開催）

会員企業視察会 ＡＳＴＩ㈱掛川工場（平成 26 年 12 月 17 日開催）

講演会「新次元の東アジアの始まり」（平成 27 年 1 月 23 日開催）

会員企業視察会 中部印刷㈱（平成 27 年 2 月 24 日開催）
会員企業視察会 日本ビニロン㈱（平成 27 年 3 月 13 日開催）

②ソフトウェア産業振興研究委員会

正会員数 29 社（平成 26 年 9 月 30 日現在）
総会（平成 26 年 5 月 26 日開催）
視察会 ㈱ＪＭＣ（平成 26 年 7 月 30 日開催）
講演会「レーザ加工の産業応用例の紹介」（平成 26 年 12 月 16 日開催）
視察会 ㈱ファナック（都田アソシエイツ・浜松技術交流プラザ８２と共催）
（平成 27 年 3 月 19 日開催）

③先端精密技術研究会

正会員数　法人 44 社、個人 22 名（平成 26 年 9 月 30 日現在）
総会（平成 26 年 5 月 14 日開催）
講演会「日本の自動車はもはや「世界の一流製品」ではない？再生への道は？
ーベンチマークとしてのフォルクスワーゲンとの対比において」
（平成 26 年 5 月 14 日開催）
講演会 「精密工学の基礎と最先端技術」（平成 26 年 7 月 9 日開催）
講習会「金属・複合材料における強化メカニズム及び破壊」
(平成 26年 10月 9日開催)
講習会「高強度鋼の表面改質における硬化層の特徴と残留応力の評価」
（平成 26 年 10 月 9 日開催）
講演会「計測を支える基幹技術と新商品の動向」（平成 26 年 11 月 6 日開催）
講演会『「最新の非接触三次元計測システム」レーザースキャナ/レーザーレーダー』（平成 26 年 11 月 6 日開催）
講習会「MEMS 技術の実用化動向」（平成 27 年 1 月 28 日開催）
講習会「産学協同研究による Optical MEMS 実用化の事例紹介~光通信用部品から OCT 用光源まで」（平成 27 年 1 月 28 日開催）
企業視察会 ㈱不二（平成 27 年 2 月 18 日開催）
講演会「ねじに関する事故例と防止策」（平成 27 年 3 月 11 日開催）
講演会「ねじ締結の設計」（平成 27 年 3 月 11 日開催）

④次世代設計・製造構造研究会

正会員数 21 社・3 校（平成 26 年 9 月 30 日現在）
総会（平成 26 年 5 月 12 日開催）
講演会「昨今のセキュリティー動向」（平成 26 年 5 月 12 日開催）
講演会「戦略的意思決定に利用される情報、アナリティクス概要とソフトウェアソリューション」（平成 26 年 8 月 4 日開催）
講演会「Industrie4.0: Siemens の取り組み」（平成 26 年 11 月 10 日開催）
講演会「Simulation Reinvented」次世代設計シミュレーション環境に向けた取り組み（平成 27 年 2 月 16 日開催）

４　産学官連携推進のためのフォーラム等開催事業

決算額 304,951 円（予算額 500 千円）＜浜松市＞

【目的】

地域大学が開催する産学官連携フォーラムに対して財源と広報に関する支援を行い、研究成果や研究シーズ、先進地域の情報等の発表を通じた地域における産学官連携の充実と市民・産業界への情報発信を図る。

【実施内容】

静岡理工科大学、浜松医科大学、静岡大学の 3 大学に対して、フォーラム開催の意向を確認し、静岡理工科大学、浜松医科大学の 2 大学において開催することを把握した。浜松医科大学は国の補助金の助成を受けることから財源負担を行わず、広報活動を行った。静岡理工科大学に対して会場経費等の負担と広報活動を行った。

(1)静岡理工科大学 地域創成フォーラムの開催

開催日：平成 26 年 11 月 25 日（火）
会　場：ホテルクラウンパレス浜松
主　催：静岡理工科大学
内　容：特別講演「企業におけるトップのあり方」
　　帝人㈱　取締役会長　大八木成男氏
　　静岡理工科大学産学コラボネットの立上げについて
　　研究活動紹介、研究内容に関するパネル展示、懇談交流会
参加者：215 名

(2)メディカルイノベーションフォーラム 2015 の開催

開催日：平成 27 年 2 月 26 日（木）
会　場：ホテルクラウンパレス浜松
主　催：浜松医科大学
内　容：基調講演「産学官連携による日本の医療機器開発の動向と将来展望」
　　国立循環器病研究センター　研究開発基盤センター長　妙中義之氏
　　パネルディスカッション「地域における医療機器開発と事業化の課題
　　～ひと・物・カネの観点から～」
　　情報交換会
参加者：120 名

【総括】

浜松医科大学、静岡理工科大学における産学官連携フォーラムは、本地域における次世代産業の創出に向けて、大学主導で開催されており、本財団は会場利用と広報活動に対する財源負担をした。

当フォーラムは産学関係者によるパネルディスカッション等を通じて、有識者のそれぞれの立場から取組紹介や事例発表を行うなど、大学と産業界との連携強化を図ることができた。当財団としては、平成 27 年度も引き続き財団の広報ツールやネットワークを積極的に活用し、幅広い周知と集客に努めていく。

3【学ぶ】人材育成支援

5　人材育成事業

決算額 11,529,917 円（予算額 10,000 千円）＜浜松市＞

(1)新素材基礎技術講座

【目的】

次世代自動車（EV、HV）の普及が加速する中、燃費向上、環境負荷軽減のため、車体の軽量化が強く求められており、超高張力鋼板（ウルトラハイテン）をはじめ、炭素繊維強化樹脂（CFRP）やマグネシウム、チタン材料等の新素材の活用が必須となっている。これら新素材の材料特性、加工方法、用途展開などの基本を習得し、経営資源を強化して新しい事業拡大に結び付ける。

【実施内容】

輸送機器関連企業を中心に、新素材の活用を意図する企業や製品設計、企画、製造、生産技術などに携わる技術者を対象として講座を開催した。平成 25 年度の参加人数が少なかったことから、アンケートを元に講師、カリキュラム、広報などの見直しを行う事により参加者数の増加につなげた。具体的には、講義の内容に製品への活用に近い事例を盛り込むとともにその旨を開催案内に記載してより広範囲な広報を行った。

①平成 26 年 11 月 4 日（火）マグネシウム基礎講座　　参加者 21 名（14 名）
②平成 26 年 11 月 18 日（火）CFRP 基礎講座　　参加者 28 名（13 名）
③平成 26 年 11 月 26 日（水）ウルトラハイテン基礎講座　参加者 27 名（7 名）
④平成 26 年 12 月 3 日（水）チタン基礎講座　　参加者 25 名（7 名）

※（　）内数値は平成 25 年度

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 26 年度
①受講者数	平均 10 名	平均 25 名	各 10 名以上
②受講者の満足度	80%	99%	90%以上

【総括】

平成 25 年度の参加者数が少なく低調であったことから、アンケートを元に講座内容の見直し及びより広範囲な広報を行うことで、新規需要の開拓に成功し、前期比約 2.5 倍の受講者を得ることができ、また受講者の満足度も高めることができた。

これらの結果から平成 27 年度も広報の強化を継続するとともに、さらなる改善を試みる。特にチタン基礎講座において、浜松テクノカレッジと連携した切削加工と溶接の実習のほか、㈱榛葉鉄工所の協力を得てプレス溶接ラインの見学等を行い、これまで以上に技術の実践的な修得と受講者の満足度を高めていきたい。

【講座内容】

開催日	内　容	講　師
【マグネシウム】 11 月 4 日（火）	マグネシウム鋳造法の特徴と自動車分野への適用	㈱アーレスティ 技術部　シニアアドバイザー 武田　秀 氏
	マグネシウム合金圧延板材と適用事例	日本金属㈱ 技術部門　技術研究所 研究第一グループ　主査 佐藤雅彦 氏

	マグネシウムの最新技術・新製品動向	森村商事㈱ 金属事業部 テクニカルマネージャー 虫明守行 氏
【ＣＦＲＰ】 11 月 18 日(火)	CFRP の材料特性と成形技術	東レ㈱ ＡＣＭ技術部・主任部員 山口晃司 氏
	CFRP の自動車への適用	金沢工業大学 大学院工学研究科 高信頼性ものづくり専攻 教授 （元トヨタ自動車㈱） 影山裕史 氏
	航空機における CFRP の現状と動向	大同大学　工学部 総合機械工学科 機械システム専攻　教授 （元川崎重工業㈱） 平　博仁 氏
【ウルトラハイテン】 11 月 26 日(水)	自動車用ハイテンの 冶金的意味と製造技術	新日鐵住金㈱ 技術開発本部　フェロー 高橋　学 氏
	ウルトラハイテンの 板材成形技術	JFE スチール㈱ スチール研究所 薄板加工技術研究部 主任研究員（部長） 山﨑雄司 氏
	部品高強度化のための ホットスタンプ技術	新日鐵住金㈱ 技術開発本部　鉄鋼研究所 利用技術研究部 主幹研究員 鈴木利哉 氏
【チタン】 12 月 3 日（水）	チタンの基礎 ～材質、分類、特性	一般社団法人日本チタン協会 コンサルタント 伊藤　均 氏
	チタンの加工 ～プレス、溶接、切削	一般社団法人日本チタン協会 コンサルタント 上瀧洋明 氏
	日本のチタン産業と チタンの用途～最新動向	一般社団法人日本チタン協会 企画部長 技術士 木下和宏 氏

※全講座の最後に、講師を交えて 30 分の総合討議を実施。

(2) 製造中核人材育成事業

【目的】

浜松地域の基幹産業である輸送用機器製造業を支える人材を継続して育てていくため、基盤製造技術（成形、加工、塗装、仕上げ、組立て等）を体系的に理解し、各々が担当する前後の一連の工程を把握した上で、広い視野でスキルアップができる人材を育成する。

【実施内容】

現場経験が豊富な講師陣によるものづくりの基盤技術に関する講義（約 100 時間）と、多彩な工場見学等を通じて、様々な製造工程や工場運営を学ぶ、将来の工場長を育成する「製造中核人材育成講座」（以下、本講座）を開催した。今年度から新たに「溶接実習」「熱処理概論＋現場見学」を追加することでカリキュラムを充実させ、受講者の満足度向上につながった。また、本講座とは別に参加企業同士による「受講生企業現場視察会」を新たに企画し、4 社の参加を得て実施した。加えて、受講生同士の交流会を 6 回開催し、受講者間の交流を深めて横のつながりをつくることができた。12 月 24 日には運営委員会を開催し、平成 27 年度のカリキュラムへ反映させるべくアドバイスをいただいた。

また、本講座の開催期間が長い理由で、受講を見送っている中小企業や過年度受講企業へのフォローアップとして、別立てのセミナーも開催した。

①製造中核人材育成講座

開催日： 平成 26 年 5 月 29 日（木）～ 平成 26 年 11 月 14 日（金）全 24 回
約 100 時間

会　場：スズキ㈱歴史館、ヤマハ発動機㈱、神谷理研㈱、西尾精密㈱、
ポリテクカレッジ浜松（東海職業能力開発大学校浜松校）、視察先企業

受講人員：26 名（21 社）　※募集定員は 25 名

②フォローアップ講座

開催日：平成 26 年 6 月 25 日（水）～ 平成 26 年 12 月 18 日（木）

計９回企画し７回開催した。（２回は、天候不順による中止。）

③本講座受講生企業現場視察会

ⅰ）平成 26 年 10 月 17 日（金）㈱榛葉鉄工所（参加者：5 名）
ⅱ）平成 26 年 10 月 20 日（月）㈱協栄製作所（参加者：5 名）
ⅲ）平成 26 年 10 月 31 日（金）シャトル工業㈱（参加者：5 名）
ⅳ）平成 26 年 11 月 11 日（火）神谷理研㈱（参加者：5 名）

④各種セミナー

ⅰ）平成 26 年 7 月 10 日（木）ものづくり岡崎フェア 2014 視察バスツアー
（参加者：26 名）
ⅱ）平成 26 年 7 月 17 日（木）地震に強い工場づくりセミナー（参加者：73 名）
ⅲ）平成 26 年 9 月 3 日（水）トヨタ生産物流セミナー（参加者：312 名）
ⅳ）平成 26 年 9 月 11 日（木）儲かる工場作りセミナー（参加者：113 名）
Ⅴ）平成 27 年 2 月 18 日（水）利益を出すための「ものづくり現場」実践講座
（参加者：160 名）

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 26 年度
① 受講者数	19 名	26 名	20 名以上
② 受講満足度	94%	100%	90%以上

【総括】

平成 26 年度、受講満足度が 100%という喜ばしい結果を得ることができた。これは、運営委員、受講者及びその上司へヒアリング等の実施や受講者同士の交流会の開催回数を増やしたことによる受講者同士のコミュニケーションの増加などが要因であると考える。平成 27 年度以降も取り組みを継続していく。また、受講生の交流が活性化したことから、受講生企業間でのマッチング（見積もり依頼等）について 10 件の報告がアンケートからあった。

平成 27 年度のカリキュラム内容については、素材（鉄・アルミニウム）の材料そのものの基礎や、工場長としての心構えに関するディスカッション、現場改善等を加え、更に充実させさせていく。

また、フォローアップ講座や各種関連セミナーも地域企業の要望、受講者のご意見を聴きながら開催していく。

【講座内容】

開催日	内　容	講　師
5 月 29 日（木）	開講式	
	「ものづくり企業の進むべき道」（公開講座）	静岡大学工学部 特任教授　中村　保 氏
	「ヤマハ発動機における事業開発とモノ作り」（公開講座）	ヤマハ発動機㈱ 常務執行役員　滝沢 正博 氏
	懇親会（受講生＋上司の方）	
6 月 3 日（火）	輸送機器ものづくり概論	スズキ㈱　技術支援部 技術教育課長　宮井 研二 氏
6 月 10 日（火）	鋳造講義	ヤマハ発動機㈱エンジンユニット コンポーネント統括部 材料技術部長　橘内　透 氏
	組立てライン見学	
	鋳造現場見学	
6 月 17 日（火）	工場見学（鋳造メーカー）	㈱木村鋳造所
6 月 24 日（火）	鍛造概論	浜松工業技術支援センター　光科 上席研究員　鷲坂 芳弘 氏
	素材特性概論	浜松工業技術支援センター 材料科 科長　伊藤 芳典 氏
	浜松工業技術支援センター施設見学	
7 月 1 日（火）	板材成形概論	スズキ㈱　生産管理部　研修課 専任職　山下　進 氏
7 月 8 日（火） 7 月 9 日（水）	鍛造現場見学（1 班）	西尾精密㈱ 相談役　西尾 眞之 氏
	鍛造現場見学（2 班）	
7 月 15 日（火）	切削概論	静岡大学　名誉教授 鈴木 康夫 氏
	切削現場見学（西誠㈱）	西誠㈱代表取締役社長 西山 恭也 氏
7 月 23 日（水）	実習 1 日目【板材成形（1 班）切削（2 班）射出成形（3 班）】	ポリテクカレッジ浜松

7 月 30 日（水）	実習 2 日目【板材成形（2 班） 切削（3 班）射出成形（1 班）】	ポリテクカレッジ浜松
8 月 6 日（水）	実習 3 日目【板材成形（3 班） 切削（1 班）射出成形（2 班）】	ポリテクカレッジ浜松
7 月 31 日（水）	実習 3 日目【板材成形（3 班） 切削（1 班）射出成形（2 班）】	ポリテクカレッジ浜松
8 月 22 日（金）	工場見学 （輸送用機器完成車工程）	スズキ㈱　湖西工場
	受講生懇親会	
8 月 26 日（火）	めっき・表面処理概論	神谷理研㈱ 代表取締役専務　神谷 武彦 氏
	めっき・表面処理 現場見学	
9 月 2 日（火）	樹脂成形概論	イオ インダストリー 製造部　次長　緑川 広貴 氏
	樹脂成形工場見学	
9 月 9 日（火）	塗装概論	ヤマハ発動機㈱
	塗装現場見学	㈱協栄工業 取締役業務部長 荒川 廣志 氏
9 月 17 日（水）	溶接概論＋溶接実習（ﾃｸﾉｶﾚｯｼﾞ）	㈲岩倉溶接工業所 代表取締役　岩倉 正雄 氏
9 月 25 日（木）	溶接現場実習	岡本プレス工業㈱ 技術部　部長　安間 久雄 氏
10 月 1 日（水）	3 次元 CAD 概論 設計ツールとしての 3 次元活用法	ポリテクカレッジ浜松
10 月 8 日（水）	ソリッドモデリングの手法 CAE を活用した設計検討と検証	ポリテクカレッジ浜松
10 月 15 日（水）	金型概論	オーミ㈱
	金型現場見学	
10 月 22 日（水）	新日鐵住金㈱名古屋製鐵所視察	新日鐵住金㈱名古屋製鐵所
10 月 29 日（水）	冷間鍛造概論＋現場見学	㈱クリアテック
11 月 5 日（水）	熱処理概論＋現場見学	㈱メタルヒート
11 月 14 日（金）	修了式	
	「ものづくり企業の進むべき道」（公開講座）	静岡大学工学部 特任教授　中村　保 氏
	「工場長の心得」（公開講座）	関ものづくり研究所 代表　関　伸一 氏
	懇親会（受講生＋上司の方）	

フォローアップ講座（専門講座）

開催日	内　容	講　師
6 月 25 日（水） 7 月 2 日（水）	実践的 PLC セミナー（17 名）	ポリテクカレッジ浜松

7 月 11 日（金）	①三菱重工業㈱名古屋誘導システム製作所（中止） ②東明工業㈱　視察会（延期）	
9 月 10 日（水） 9 月 17 日（水）	実践的 PLC セミナー（2 回目）（13 名）	ポリテクカレッジ浜松
9 月 19 日（金）	大垣精工㈱視察会（16 名）	
10 月 23 日（木）	NT ツール㈱飯田工場（21 名）	
11 月 21 日（金）	㈱サイベックコーポレーション視察会（21 名）	
11 月 27 日（木）	ポーラ化成工業㈱袋井工場（34 名）	
12 月 9 日（火）	㈱トヨタ自動織機　高浜工場（40 名）	
12 月 18 日（木）	三菱重工業㈱名古屋誘導システム製作所（大雪のため中止）	

(3) ３次元デジタル技術講座

【目的】

地域中小企業の情報技術の高度化のため、最新の 3 次元 CAD/CAM の機能や CAD/CAM を活用した設計事例に関する研修を実施し、高度情報技術者等の養成を支援する。

【実施内容】

3 次元デジタルソフト（CATIA V5 SolidWorks）を使用して、3 次元デジタル技術（CAD/CAM/CAE 等）の基礎的知識の習得を目的とした講座を、3 次元デジタル技術を活用している技術者による講義＋現場実習形式で実施した。

上半期は講座の検討を進め、3 次元デジタル技術を活用している技術者による講義と現場実習を組み合わせた内容とし 2 講座を企画した。7 月開催の SolidWorks 編には、定員 5 名に対して 2 名が受講し、現場見学会には 8 名が参加した。また、3 次元デジタル技術講座（CATIAV5 編）では、開催 2 か月前の告知及びチラシ、メール配信（約 4,000 社）を駆使し募集開始をしたが、応募者が 1 名と少数のため、中止とした。

■3 次元デジタル技術講座（SolidWorks 編）

開催日	内　容	講　師
7 月 14 日（月） 13:30～17:00	モデリング初心者講座（選択科目）	㈱カワイビジネスソフトウェア
7 月 15 日（火）～17 日（木） 13:30～17:00	解析入門講座 ・線形静解析の実行等	㈱カワイビジネスソフトウェア
7 月 25 日（金）	3DCAD　3D プリンター現場見学（選択科目）	NT メカトロニクス㈱

受講者が少なかったことから、ヒアリングを行って要因を探っていった。その結果、すでに３次元デジタル技術を必要としている企業には CAD が導入されていて基礎的な講座の需要が少ないことがわかった。また、一方で３次元デジタル技術を導入して

いない企業では世界の潮流を経営者が意識できていないことがわかってきた。そのために、３次元デジタル技術を俯瞰することによって世界のものづくりの潮流を理解していただくための経営者向けセミナーを急遽企画した。

平成 27 年 3 月 6 日 「3 次元ものづくり革新戦略セミナー」参加者：84 名

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 26 年度
①参加者	― 名	2 名	― 名

【総括】

平成 26 年度はままつデジタル･マイスター（HDM）養成講座からリニューアルし、3 次元デジタル技術（CAD/CAM/CAE 等）の導入と基礎技術の習得を目的とした講座を企画したが芳しい結果が得られなかった。その要因として、CATIA については航空機産業などへの企業参入を見据えて講座を設定したものの、技術習得を希望するレベルにまで達している企業が少なかったことが挙げられる。また、SolidWorks については、既に導入済みの企業が多く、社内教育体制が取られていることが考えられる。その後実施したヒアリング等の結果から、対象を経営層に絞り、3 次元デジタル技術を俯瞰することによって世界のものづくりの潮流を理解していただき、中小企業にもできる設計から製造までのトータルなものづくりの啓発としてのセミナーを開催したところ好評であった。

平成 27 年度は、新たに CAD を導入しようとする企業をターゲットとし、経営者向けの俯瞰セミナー､実務者向けの３次元デジタル技術で設計～出力までを実際の CAD で体験してもらう講座などを実施し、地域企業の CAD 導入と技術者育成を進める。

(4) パワーエレクトロニクス技術講座（基礎）

【目的】

ハイブリッド車、電気自動車、燃料電池車など、次世代自動車の普及に伴い、車の電気化・知能化が急速に進んでおり、大電流を使用するパワーエレクトロニクス技術（パワエレ技術）が非常に重要となっている。国内の第一人者を講師に迎える講座を実施し、自動車だけでなく、ロボット産業も含めた 1 次、2 次サプライヤークラスの事業を担うことのできる技術者育成する。

【実施内容】

次世代自動車やロボットなど、パワーエレクトロニクス関連製品の事業化を目指す企業の中堅技術者を対象に、駆動系の実装設計の実習など有用性の高い技術を習得できる講座を開催した。

開催日：平成 26 年 10 月 2 日（木）～ 平成 26 年 11 月 6 日（木）（6 日間）
会　場：イノベーション推進機構 8 階セミナー室
参加人数：15 名（募集：15 名）

【成果指標】

項目	実績		期首目標
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 26 年度
①パワーエレクトロニクス技術講座（基礎）満足度	参加：19 名 満足度：96% （目標 80%）	参加：15 名 満足度：92%	参加：15 名 （募集予定） （目標 85%）

【総括】

目標とした参加者数及び満足度をクリアすることができた。これは、今までの講座内容を大幅に見直し、技術内容を地域の要望が高い永久磁石同期型モータ（PM 型モータ）に絞ることで一貫性のある講義内容を提供できたことにある。また、新たな実習教材を用いることで、スキルアップにつなげることができた。今後もこの方向性による見直しを行い、さらに熱解析などを充実させたプログラムへ改善していく。

【講座内容】

開催日	内　容	講　師
10 月 2 日（木）	パワーエレクトロニクス概要	東京工業大学　名誉教授 深尾　正 氏
	パワーエレクトロニクスのための電気工学の基礎	
10 月 9 日（木）	パワーデバイスと電力変換回路	静岡大学　教授 野口 季彦 氏
	パワーエレクトロニクスのための電子回路	
10 月 16 日（木）	各種モータと駆動方法 I - モータの種類と特徴 -	静岡理工科大学　講師 服部 知美 氏
	各種モータと駆動方法 II - モータドライブ制御 -	
10 月 23 日（木）	パワーエレクトロニクス用センサの原理と利用法	電気学会 IEEJ ﾌﾟﾛﾌｪｯｼｮﾅﾙ 渡邊 利彦 氏
	パワーエレクトロニクスのための熱設計	Future Facilities ㈱ 多賀谷 洋介 氏
10 月 30 日（木）	電気・電子計測と（DC モータ）の制御　講座＆実習	㈱プリンシパルテクノロジー 大羽 規夫 氏
11 月 6 日（木）	PM モータの制御　講座＆実習	㈱プリンシパルテクノロジー 大羽 規夫 氏
	パネルディスカッション	静岡大学教授　野口 季彦 氏 プリンシパル　大羽 規夫 氏

（5）技術経営講座

【目的】

浜松地域のものづくり産業において企業経営を担う技術者に対し、技術を戦略的にマネジメントする能力の更なる向上を目的とした講座を開催し、企業経営者の技術経営（MOT）に対する認識向上を図る。

【実施内容】

技術系の会社で経営に携わる人材を対象に、技術に付加価値を付け市場力を増すためのマーケティング、デザイン・マネジメント等の講座を開催した。

内容を検討し、新たに「最新技術経営の考え方」及び「イノベーション時代の技術者・経営者の実践」を加えて講座を開催した。

①講座名：技術経営講座
「最新技術経営の考え方」
「製造業における危機管理（BCP・防災）の捉え方」
「マーケティング」

「デザイン・マネジメント」
「イノベーション時代の技術者・経営者の実践」　5講座延べ8回
開催日：平成26年8月～平成26年12月
会　場：イノベーション推進機構セミナー室、浜松労政会館（10月20日のみ）
定　員：募集定員は各講座15名

②セミナー
災害時における中小企業の事業継続計画（ＢＣＰ）策定セミナー及び個別相談会
開催日：平成26年6月18日（水）

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成25年度	平成26年度	平成26年度
①　受講者数	平均14名	平均9名	各10名以上
②　受講満足度	90%	100%	90%以上

【総括】

今回は、平成 25 年度のセミナーで評判の高かった講師を継続的に採用しつつ、講師陣の一部見直しや広報活動の改善に努めたが受講者数が低迷した。技術経営講座のコンセプト自体は有用であるが、なかなか地域企業に浸透させることができなかった。

マーケティングは毎年講座を開催しており、最近はデザインマネジメントに対するニーズが高まりを見せているため、平成27年度は自社製品を生み出すことに焦点を当て、デザインに特化した事業にリニューアルする。企画立案から設計・製造までの一貫したデザインによるデザインマネジメントを行う講座として地域企業に貢献していく。

【講座内容】

開催日	内　容	講　師
8月27日（水）	◆最新技術経営の考え方 ・イノベーションと企業の価値構造の変化 ・最新MOTの基本的考え方の整理 ・オープン・イノベーション時代の顧客価値向上とは ・マーケティングによる先読みと顧客価値向上の実践 ・日本の製造業の技術とマーケットの強みの見直し まとめ：今後のMOTの活用と展望	テクノ・インテグレーション 代表　出川　通 氏
9月5日（金） 9月12日（金）	◆製造業における危機管理（BCP・防災）の捉え方 ＜危機対応力ある企業体質をつくるBCP構築のススメ＞ ・事業継続計画（ＢＣＰ）の概要とその必要性 ・BCP策定のポイント解説と演習 ・サプライチェーンとBCP	e－経営推進室 代表　宮角 良介 氏

10月20日(月) 10月27日(月)	◆マーケティング ・中小企業の「マーケティング戦略」と「ブランドづくり」を学ぶ ・マーケティング的発想方法とは何か ・小が大を超えるマーケティングの法則 ・ブランドのチカラ ・小さな会社を強くするブランドづくり	静岡県立大学 経営情報学部 教授　岩崎 邦彦 氏
11月10日(月) 11月17日(月)	◆デザイン・マネジメント ＜商品開発におけるデザインの活用＞ ・デザインによる製品価値の向上 ・デザイナーの活用方法 ・サービスのデザイン	静岡文化芸術大学 デザイン学部生産造形学科 教授　伊豆 裕一 氏
12月10日(水)	◆イノベーション時代の技術者・経営者の実践 ・技術者のイノベーション、イノベーターの必要性と役割 ・経営者からの期待とイノベーションの未来共有化 ・企業の開発現場における人材評価システムの現状とイノベーションの担い手の評価 ・事例1（海外に学ぶ）：日独米の製造業におけるイノベーター評価と展望 ・事例2（歴史に学ぶ）：平賀源内に学ぶイノベーターの条件とヒント ・経営者と技術者の意識改革と覚悟	テクノ・インテグレーション 代表　出川　通 氏

(6) その他

ア　次世代起業家育成事業

【目的】

浜松での起業を促進するため、次世代を担う市内の小中学生、高校生に起業を身近に感じてもらい、早期から起業への関心や興味を促すことにより、次世代の起業家や産業人材を育成することを目的とする。

【実施内容】

平成 26 年度は、起業家やものづくりの技術者等が講師として、市内の児童・生徒を対象に講話を行う「起業家精神・ものづくり精神啓発事業」を浜松市が実施した。財団では講師選定や謝金の支払いなどの一部の業務を行った。

≪実施概要≫

事業実施校　56 校　（小学校 40 校、中学校 12 校、高等学校 4 校）
実施回数　56 回
受講生徒数　5,958 人
登録講師　34 名

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成25年度	平成26年度	平成26年度
①実施校	43校	56校	―
②受講生徒数	5,232人	5,958人	―

【総括】

平成26年度の事業は、概ね問題なく遂行できた。平成27年度から全て市へ移管することで、財団は企業人材など社会人向けの事業に資源を集中する。

イ　浜松ものづくりマイスター推進事業

【目的】

浜松市より認定を受けた「浜松ものづくりマイスター」の活動を通じて、技能・技術の維持継承と、次世代のものづくり産業を担う人材の確保・育成を図る。

【実施内容】

地域の卓越した技術・技能を継承するため、浜松市から認定された「浜松ものづくりマイスター」を活用し、中小企業の技術者向けのインターンシップ等を行った。平成26年度から、長期的視点に立った次世代産業人材育成を目指し、マイスターによる現場見学会等を企画・開催した。

平成26年度新たに認定された新規マイスター2名を紹介する案内を作成し、イベント時に市政記者クラブを活用した宣伝を行った。ビジネスマッチングフェア次世代人材育成講義の開催、親子体験教室やインターンシップを開催した。また、年度末には、認定マイスター14名による意見交換会を実施した。

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成25年度	平成26年度	平成26年度
①インターンシップ参加者数	24名	72名	15名
②インターンシップ満足度	80%	90%	90%

【総括】

平成26年度は、産業人材育成のためのインターンシップ講座などを積極的に開催し、参加人数を大幅に増やすことができた。また、制度開始から5年が経過したことから、事業のブラッシュアップのため、認定マイスター14名による意見交換会を実施し、活動内容や人材育成事業の方向性について検討を行った。これらを踏まえ、平成27年度は産業人材育成の面を強化していく。また、地域ニーズ及び地域特性の高い分野を中心にマイスター候補者を推薦し、地域の優れた技術が地域に維持継承されるような事業として実施する。

【活動内容】

開催日・場所	内　容	講　師
4月23日（水） 西尾精密㈱	インターンシップ 「金型製作実演・実習」 参加者数16名	西尾精密㈱ 相談役　西尾 眞之 氏

7月23日（水） アクトシティ浜松研修交流センター62 交流室	企業研究セミナー 「夢の実現　世界に通用する【ものづくり】を目指して」　参加者数約100名 ※ビジネスマッチングフェア2014 高校生への講演	㈱浅沼技研 代表取締役社長　浅沼 進 氏
8月1日（金） 浜松工業技術支援センター	工業技術研究所フェア 「マイスター体験教室・講演」 参加者数約200名	㈱浅沼技研 代表取締役社長　浅沼 進 氏 ㈱ポリシス 代表取締役　毛利 俊甫 氏 ㈱タケモト 専務取締役　竹本 京司 氏 ㈲豊岡クラフト 取締役会長　山﨑 肇 氏
8月5日（火） ㈱浅沼技研	インターンシップ 「計測トレーサビリティ講座」 参加者数4名	㈱浅沼技研 代表取締役社長　浅沼 進 氏
10月28日（火） ㈱浅沼技研	次世代人材育成講義 工場見学　参加者数12名 ※横浜国立大学院生への講義	㈱浅沼技研 代表取締役社長　浅沼 進 氏
2月7日（土） ㈱ピアックス＆イノベ機構セミナー室	親子体験教室 「ピアノ鏡面塗装のオリジナルコースターを作ろう」 参加者数22名	㈱ピアックス 代表取締役　小原 敏夫 氏
3月10日（火） 浜松テクノカレッジ	溶接講座 参加者数25名	㈱増田酸素工業所 代表取締役　増田 久雄 氏
3月18日（水） ㈱鈴三鉄工所	ジグボーラー実習 参加者数5名	スズキ㈱　神谷 重久 氏

4【興す】創業・第二創業支援

６　創業・新事業展開事業

決算額 5,142,062 円（予算額 5,931 千円）＜国補助＞
決算額 7,443,352 円（予算額 7,506 千円）＜浜松市＞

【目的】

浜松市が国の採択を受けた「創業支援事業計画」に基づいて、地域の創業を促進し、地域経済の活性化を図るため、産学官金の連携により、創業・第二創業の一層の支援を行う。

ものづくり産業のみならず、商業・サービス業を含む多様な産業分野における創業や新規事業展開を促進し、本地域の産業構造を厚みのあるバランスの良い「八ヶ岳構造」へと転換する。このことにより、地域産業の持続的な発展を促進するとともに、若者や優秀な産業人材の雇用の場を創出する。

（1）創業支援事業

決算額 5,142,062 円（予算額 5,931 千円）＜国補助＞
決算額 3,236,185 円（予算額 3,306 千円）＜浜松市＞

【実施内容】

多種多様な産業分野における起業や新事業展開を促進するため、地域の産学官金の機関が連携し、起業を促進する環境（体制・事業）を構築した。

浜松地域における創業支援の拠点として、ワンストップ窓口（創業・新事業展開支援総合窓口）を財団内に設置し、起業・販路開拓・資金調達の知識に長けている創業支援の専門スタッフを配置した。

また、創業・新事業展開を目指す事業者・個人に対して、各種相談に応じるとともに、地域支援機関（行政・地域金融機関・商工会等）の取り組みを連動させ、地域一丸となり、起業家のためのセミナーやサロン等を開催し、起業家の発掘から起業を促進するためのサポートを実施した。

・産業競争力強化法に基づく創業支援事業計画の認定
　認定日：平成 26 年 6 月 20 日（金）
・創業支援事業計画に基づく創業支援事業者補助金の採択
　採択日：平成 26 年 7 月 18 日（金）
　交付決定日：平成 26 年 8 月 22 日（金）
・創業支援窓口の設置経過
　平成 26 年 7 月～8 月：専門スタッフ採用活動（9/1 専任コーディネーター採用）
　平成 26 年 8 月～9 月：窓口準備・事業ツール制作・セミナー等の事業内容整備
　平成 26 年 10 月 1 日：事業本格スタート
・実施事業
　①起業・新事業展開セミナー開催
　　日　時：平成 26 年 7 月 4 日（金）
　　場　所：グランドホテル浜松
　　内　容：講演会「ベンチャーマインドの醸成について」
　　グロービス経営大学院　学長　堀 義人 氏
　　参加数：85 名
　②創業・新事業展開セミナー開催
　　日　時：平成 26 年 10 月 25 日（土）

場　所：ホテルクラウンパレス浜松
内　容：講演会「起業で夢への一歩を踏み出そう」
税理士法人坂本&パートナー　理事長　坂本 孝司 氏
和敬愛育園　園長　中川 亜子 氏
参加数：78 名

③創業・新事業展開セミナー
日　時：平成 27 年 1 月 31 日（土）
場　所：ホテルクラウンパレス浜松
内　容：講演会「先輩起業家から学ぶ！起業へのチャレンジ！」
講　師：㈱ドルフィンキッズプロダクション　代表取締役　秋元 健一 氏
ライト・イア合同会社　代表社員　大和 誠 氏
㈱AYARI　代表取締役　大城 綾 氏
参加数：83 名

④創業者・小規模事業者向け補助金セミナー
日　時：平成 27 年 3 月 7 日（土）
場　所：浜松市立城北図書館
内　容：創業者向け補助金の概要「創業・第二創業促進補助金」等
講　師：関東経済産業局　西井課長補佐、長坂係長
参加数：48 名

⑤創業・新事業展開サロン（実践サロン）
期　間：平成 26 年 11 月 6 日（木）～平成 27 年 2 月 26 日（木）
時　間：18：30～20：30
場　所：イノベーション推進機構 セミナー室
内　容：ビジネスコンサルタントや先輩起業家等、各分野で活躍されている方々を講師に招き、少人数制の講座でビジネスプランを具体的に作り上げながら、創業への準備をサポートした。
回　数：全 8 回
定　員：5 名～10 名

回	日程	テーマ	講師	参加数
1-1	11 月 6 日	ビジネスプラン初級編①	大沢 政久 氏	11 名
1-2	11 月 13 日	ビジネスプラン初級編②	大沢 政久 氏	13 名
2-1	12 月 4 日	女性のための起業講座①	佐藤 和枝 氏	6 名
2-2	12 月 11 日	女性のための起業講座②	佐藤 真琴 氏	5 名
3-1	2 月 5 日	ビジネスプラン上級編①	大沢 政久 氏	8 名
3-2	2 月 12 日	ビジネスプラン上級編②	増田 靖氏 氏	10 名
3-3	2 月 17 日	ビジネスプラン上級編③	大沢 政久 氏	7 名
3-4	2 月 26 日	ビジネスプラン上級編④	増田 靖 氏他 3 名	8 名

⑥創業・新事業展開サロン（定例サロン）
期　間：平成 26 年 11 月 20 日（木）～平成 27 年 3 月 19 日（木）
時　間：18：30～20：30
場　所：イノベーション推進機構 セミナー室
内　容：地域の先輩起業家をお招きして、起業ストーリーを聞きながら自身の起業への夢を膨らませていただき、創業者の発掘を目指す。
創業に役立つ情報講座も同時開催。（日本政策金融公庫ほか）

回　数：全5回
定　員：20名

回	日程	先輩起業家	情報講座	参加数
1	11月20日	ぬくもり工房・大高 旭 氏	日本政策金融公庫	20名
2	12月18日	ぎょうざの天海・荒田 圭子氏	日本政策金融公庫	10名
3	1月15日	シーポイント・野澤 浩樹 氏	日本政策金融公庫	17名
4	2月19日	フードランド・中村 健二 氏	鈴木 美江 氏	16名
5	3月19日	こころん・中谷 よしの 氏	増田 靖 氏	16名

【成果指標】

項目（26年9月～27年3月）	実績		目標
	平成25年度	平成26年度	平成26年度
①創業者件数	― 件	6件	13件
②相談件数	― 件	140件	175件
③セミナー参加人数	― 件	367名	345名
④サロン参加者人数	― 件	147名	100名

【総括】

創業支援事業は平成26年度9月から、経済産業省の計画採択と補助金を得てスタートした創業支援事業である。新たに専任の創業支援コーディネーターを雇い、セミナーやサロン（勉強会）等を事業の主軸に置き、相談業務もあわせて実施した。相談窓口に関しては、はままつスタートアップの周知を積極的に行ってきたことや、事業を進めていく上で窓口の存在が徐々に地域に浸透してきたことの要因により、平成25年度までと比べると創業に関する相談件数は格段に増えた。窓口の開設により相談を躊躇していた層（創業予備群）の発掘につながり、きめ細かいサポートを通じて、創業希望者からは窓口に対する高評価の声を得たほか、新規創業につながった事例も出てきた。

平成27年度に向けては、平成26年度の事業推進の中で培った経験を基に、事業のさらなるブラッシュアップを行い、事業展開をしていく。また、平成27年6月に創業支援総合窓口を浜松商工会議所1階に移設し、浜松市、浜松商工会議所と共同で「はままつ起業家カフェ」として新たにスタートさせる計画である。専用のセミナー室やより気軽に立ち寄れる交流スペースを設けることで、情報収集や創業希望者同士の交流の場として積極的に活用していく。それらにより、事業を推進するだけでなく、浜松地域にとって創業しやすい環境づくりも図っていく。

■創業支援総合窓口対応にて6名の創業者が誕生

0. 男性（20代）＝映像制作会社（平成26年7月）**※開業直後の支援を実施**
1. 女性（40代）＝アロママッサージ店（平成26年11月）
2. 男性（30代）＝不動産会社（平成26年11月）
3. 男性（40代）＝人材紹介会社（平成27年1月）
4. 男性（30代）＝建築設計事務所（平成27年3月）
5. 男性（30代）＝ヨガ教室（平成27年3月）
6. 男性（50代）＝空調機材販売代理店（平成27年3月）

※27年度には22名の創業予定者が控えている（平成27年3月末時点）

（2）新事業展開プロデュース事業

決算額 4,207,167 円（4,200 千円）＜浜松市＞

【実施内容】

「はままつ産業イノベーション構想」にて、新たなリーディング産業として位置付けた 6 つの成長分野等において、事業化の可能性が高く、将来に広がりが期待できる新規事業で、かつ自社のみでなく地域企業が集団として発展させることができる事業を公募し、8 社の応募書類を受け付けた。書類審査を経て、7 月 18 日に申請企業によるプレゼン審査を行い、8 社を採択した。

採択企業に対しては、事業計画の立案、資金調達、研究開発、販路開拓等の各フェーズにおける課題・問題点などに対し、財団の経営コーディネーターや専門家（中小企業診断士、経営コンサルタント等）を配置し、事業化までハンズオン支援を行うとともに、必要に応じて他の企業活動とのマッチングを図り、成長分野を横につなぐ新たなビジネスモデルの構築を支援した。

募集期間　　：平成 26 年 6 月 30 日（月）まで
プレゼン審査：平成 26 年 7 月 18 日（金）
交付決定　　：平成 26 年 7 月 30 日（水）
採択案件　　：全 8 件＋1 件（平成 25 年度からの継続案件）
事業支援期間：平成 26 年 8 月 1 日～平成 27 年 7 月 31 日の 1 年間

事業社名	新事業の名称
パイフォトニクス㈱	次世代ホロライト・シリーズの米国市場開拓
㈱サインクリエイト	「日本初」太陽光発電による独立電源スーパー防犯・防災灯の販路開拓事業
㈱玉澤	「まんさく工房」食肉工場直送小売店の出店
クリスタルホトインダストリー㈱	光学式非侵襲型血液検査装置の開発と販売
㈱オサカベ	ハウスクリーニング（住宅外装洗浄）＋ハウスコーティング（光触媒）
メッキ屋いいら	デリバリーサービス付きの総合表面処理会社「メッキ屋いいら」プロジェクト
有限会社鈴上電気	大型タッチパネルによる認知機能向上システムの商品開発
千年杉建築事務所	津波避難発明装置「浮力エレベーター」の提携企業営業
有限会社竹村園芸 (平成 25 年度から継続)	造園業、木質チップ発酵装置の実用化

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 26 年度
サポート企業数	5 社	9 社	6 社

【総括】

浜松地域から新たな新規事業展開を促進し、地域経済の発展につながるよう個人・中小企業者等への創業及び新規事業に対する支援事業としてスタートさせた。

支援内容は、新製品の開発から新店舗展開、海外市場へ向けた販路開拓など多岐にわたり、採択企業全 9 社のニーズに応じたサポートを実施した（創業案件なし）。それらの支援策として、まずは各企業の展開に沿った専門家を派遣し、専門的な見地から各事業のブラッシュアップを実施した。成果としては、①県外への販路開拓の中で

新規顧客の獲得、②新製品の開発に伴う販路開拓において、医療関係とのマッチング、③米国市場への販路拡大に向けて、専門家による現地パートナー会社とのマッチング（継続中）などである。新たな事業展開は時間を要することから、平成 27 年度も引き続き各企業へのサポートを行い、事業化の成功に向けた支援を行っていく。また、中小企業者の新規事業に対する支援制度の位置付けを継続しつつ、新たに創業支援事業と一体化させた制度設計に変更し、地域の創業支援対策の一環として事業展開を図っていく。

(3) 起業支援セミナー

決算額 0 円（予算額 0 千円）＜自主財源＞

【実施内容】

ア　起業に伴う個別相談・販路開拓支援

起業や既存企業の経営改善・販路開拓等の経営課題に関する相談に対し、経営コーディネーターが課題解決に向けたアドバイスを行った。

浜松市立城北図書館にて起業支援のための定例相談会を実施した。

開催回数：12 回（毎月 1 回、第 3 水曜日）

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 26 年度
①相談案件総数	29 件	27 件	30 件
②月平均相談人数	2.4 名	2.0 名	2.5 名
③起業相談	8 件	15 件	10 件
起業した数	1 件	1 件	―
継続支援	3 件	14 件	―
④販路開拓相談	5 件	1 件	15 件
⑤経営相談	15 件	9 件	5 件
⑥知財相談	1 件	0 件	―
継続支援（④～⑥）	3 件	10 件	―

イ　城北図書館起業家交流サロン事業

浜松市立城北図書館との共催により、新規創業者及び創業予定者を対象に、創業支援・啓発セミナーを開催した。年間 3 回を目安として、自ら起業した経営者の経験談を中心とした「起業支援セミナー」を実施した。

会場：浜松市立城北図書館

【講座内容】

開催日	内　容	講　師
8 月 23 日（土）	起業マインドの醸成「35 歳までに社長になる！あきらめない自分の磨き方」	社会保険労務士 村松 貴通 氏
9 月 20 日（土）	起業マインドの醸成「35 歳までに社長になる！あきらめない自分の磨き方」実践編	社会保険労務士 村松 貴通 氏
12 月 20 日(土)	私の起業は七転び八起き ～リアルな起業体験談～	Kokoromi 斉藤 千明 氏

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成25年度	平成26年度	平成26年度
①セミナー開催数	3回	3回	3回
②参加人数	98名	73名	110名

【総括】

当初の計画通り、経営に関する相談会を毎月1回、起業に向けたセミナーを年3回実施し、アンケート結果からは高評価であった。また、相談者の中には、平成26年10月に開設した創業支援総合窓口へ本格的な相談に訪れる方もおり、起業希望者の掘り起こしにつながっている。

しかしながら、相談者数、セミナー参加数ともに当初の目標数に達しなかった。要因として考えられるのは、地域への広報が城北図書館内でのチラシ配布と広報はままつ掲載のみであり、セミナー等の情報が広範囲に周知できていないためと考える。

平成27年度については、浜松地域における創業支援事業計画の中で、城北図書館の位置づけと役割を明確にし、互いの事業を連携した形で相談会やセミナー内容のブラッシュアップを行いつつ実施していく。

7　半田山ＴＢＧ活用運営事業

決算額3,895,608円（予算額4,225千円）＜自主財源＞

【目的】

新事業創出や産学官連携を目指す企業の活動の場として、「半田山TBG（テクノビジネスゲート）」を提供するとともに、施設の有効活用または処分に向けた抜本的な検討を行う。

【実施内容】

インキュベート施設として利用していた半田山ＴＢＧ施設の有効活用に向けては、機構所有の旧半田山事務所と併せて、平成25年度から民間企業や研究会等の事業体を対象に入居者探しを進めてきたが、入居希望者を見つけ出すことはできなかった。

また、底地の所有者である浜松市や隣接建物（連結建物）の所有者である常葉大学に対して譲渡を前提とした半田山ＴＢＧの活用を打診するとともに、当機構が関与するはままつ医工連携拠点での活用の可能性等を探ってきたがいずれも不調に終わった。

以上の経緯に加え、減価償却費を除く年間の土地賃借料や維持管理に約220万円のコストを要するため、10月及び2月開催の理事会・評議員会において、半田山ＴＢＧは「解体」の方向で諸手続きを進めることを報告し了承を得た。現在は常葉大学と解体時期、解体方法、費用負担等について調整を進めており、解体後に浜松市へ土地を速やかに返却する。

※ＴＢＧ（Techno Business Gate）

旧㈶浜松地域テクノポリス推進機構が、経営基盤の脆弱な起業家に提供するために半田山事務所敷地内に整備したインキュベート施設で9室（最小35㎡～最大78.4㎡：全体で522.8㎡）を有する。※9室のうち1室はインキュベートルームとして複数企業の共同利用に供する。

平成26年度末　インキュベート施設入居企業　　0社（1社H26.5 退去）
　　インキュベートルーム入居企業　0社

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成25年度	平成26年度	平成26年度
活用方針の決定	―	「解体」判断	10月決定

【総括】

半田山ＴＢＧの今後の方針が決定し、常葉大学側から建物の利用期間や解体時期、等に関する方針回答が平成27年3月末までに示される予定であった。しかしながら、大学内の調整に時間がかかり平成27年度にずれ込むこととなった。平成27年度は引き続き常葉大学と綿密に調整を進め、早期結論を求めることで解体に向けた手続きを開始する。

（現在、常葉大学は平成28年度に取り壊す方向で検討中）

なお、旧半田山事務所については、浜松市環境部による公的な活用に向けて調整し、平成27年4月1日付で建物を譲渡（寄附）した。これにより、減価償却費を除く年間維持コスト約150万円の削減につなげた。

今後は施設維持費を極力削減するとともに、解体時期、解体方法、解体費用等の調整、補助金の返還や固定資産除却などの会計処理等を的確に行っていく。

８　債務保証事業

決算額8,945,328円（予算額9,390千円）＜自主財源＞

【目的】

地域中小企業が行う技術、商品の研究開発に係る資金調達の円滑化を図り、研究開発型企業の育成を促進する。

【実施内容】

静岡県特別政策資金融資制度の経営革新等支援資金（高度技術開発貸付）に連動して、中小企業が融資銀行から借り入れた研究開発資金に対して、債務保証（債務保証期間8年以内、保証債務残高 最大3千万円、無担保）を行うものである。

（1）債務保証制度内容

ア　保証限度額　　一企業　30,000千円以内

イ　利　　率　　年1.5%（静岡県制度融資適用の場合）

ウ　保証期間　　8年以内

エ　保証料率　　0.9%保証限度額

（2）新規債務保証

平成26年度新規債務保証　0件

（3）債務保証対象企業の調査及び指導

借入先企業（関係会社を含む）の経営・財務状況資料を徴収し、その内容について調査し、返済に関する確認を融資元金融機関に対して行った。

（4）債務保証残高

平成26年度末の債務保証残高　1件／11,902千円（前年比 74.9%）

（5）求償権先に対する状況確認及び督促

求償権先の連帯保証人に対し弁護士を通じ請求を継続して行うとともに、連帯保証人との面談による状況確認と督促を継続して行う。

【成果指標】

（単位:千円）

項目	実績		目標
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 26 年度
①債務保証残高	15,880	11,902	－
②求償権残高（貸倒引当前）	3,139	3,139	1,939

【総括】

債務保証中の 2 社の内、1 社は平成 26 年 9 月に全額完済した。一方、残り 1 社は、平成 27 年 1 月に一括返済（12,685 千円、債務保証期間 7 年）予定であったことから、金融機関と共に借入先やその親会社の経営及び財務状況を確認してきた。しかしながら一括返済は同社の支払能力を超え、全額一括完済は不可能となったことから、借入先、親会社、金融機関、機構の四者間において今後の返済対応について協議を行った。

その結果、借入先や金融機関の要請もあり、平成 28 年 1 月（最終月）の一括返済額を軽減すること、また、仮に一括返済が不可能となった場合は、融資元金融機関のプロパー融資へ借り換えることを条件に、債務保証期間を制度枠の 8 年まで 1 年間延長することで同社の資金ショートを回避した。(債務保証期間の延長及び返済方法変更は、一般財団法人日本立地センターの了解を得ている。)

なお、平成 27 年度は、金融機関と協調して財務状況等を逐次確認するとともに、借入先や親会社に対し、機構の経営コーディネーターと現場訪問することなどで、経営分析や経営指導を行い平成 28 年 1 月（債務保証期間内）の完済を実現する。

5【活かす】知財総合支援

9　知的財産活用推進事業

決算額 3,997,169 円（予算額 5,000 千円）＜浜松市＞
決算額　207,050 円（予算額　200 千円）＜静岡県＞

(1) 知的財産に関する相談事業

【目的】

特許・商標等の調査、出願などの知財に関する各種相談への対応を通じて、中小企業や個人が抱える知財に関する様々な課題、悩みを解決するとともに、企業経営における知的財産活用の有効性や必要性を広く地域中小企業へ啓発し、知財の効果的活用を促進する。

【実施内容】

当財団の知財コーディネーターと知財総合窓口支援担当(特許庁事業)が連携して、中小企業や個人からの相談に応じた。

・平成 26 年度の相談対応件数は 683 件。
（内 企業訪問：98 件〔内 知財総合窓口支援専門家派遣利用：36 件〕）
・平成 26 年度の相談対応を通じた出願件数は、特許 13 件、意匠 5 件、商標 19 件。

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 26 年度
①相談対応件数	671 件	683 件	590 件
②企業訪問件数	99 件	98 件	90 件
③専門家派遣件数	48 件	36 件	40 件

※①は静岡県発明協会の知財総合窓口支援担当による相談件数を含む
※平成 26 年度の目標件数は、特許庁が設定した知財総合窓口支援事業の目標件数と合わせた。

【総括】

平成 26 年度の目標件数 590 件に対して 116%の達成率であり、相談件数が増加している。最近は、地域の商工会議所、商工会や金融機関を通じての相談、支援案件も増えてきており、また、当財団の技術コーディネーター、経営コーディネーターを通じての知財支援の要請案件も増えつつある。一方で、知財支援から販路開拓支援等に展開するケースもあり、当財団の技術コーディネーターや経営コーディネーターとの連携支援が増えている（連携支援回数 55 回）。

また、相談や問合せとして、海外の特許や商標等の出願に関するものも増えつつあり、特に海外出願は費用もかかることから、費用面での支援制度に対する関心が高い。

重要案件については、弁理士やデザイン専門家（特許庁事業）等の専門家派遣制度を活用するようにし、その際、当財団の技術コーディネーターや経営コーディネーターにも参画してもらうことで、相談内容を経営・事業課題にまで掘り下げてアドバイスするようにしている。その結果、質の面でも適切な支援ができたものと考える。

課題としては、相談のない中小企業にあっても潜在的に知財問題が存在すると思われるので、知財に関する意識・知識のない中小企業への啓発を今後も行っていく。

(2) 知的財産活用講演会・講習会

【目的】

知財に関する法制度の理解及び企業活動における知財活用の啓発を図る。

【実施内容】

知財関連法、知財関連判例、企業の知財活動、知財戦略等に関する講演会を開催するとともに、中小企業の新任知財担当者や技術者等の知財初心者を対象とした知的財産基礎講習会（6 回コース）等を開催した。また、中小企業向けに特許庁が行っている特許の審査請求料、特許料の減免制度・軽減措置に関する説明会を開催した。

①講演会

以下の知財講演会を開催

参加者数：81 社（各種機関を含む）、175 名

開催日	内　容	講　師
6 月 6 日（水）	中国知財の現状と知財を巡る諸問題～日本企業の技術・事業を守るための中国知財戦略を考える！～ ※はままつ知財研究会との共催	中国弁理士 経 志強 氏
8 月 22 日（金）	「Apple vs Samsung」判決が及ぼす知財活動現場への影響と懸念 ※はままつ知財研究会との共催	シスベルジャパン㈱ ライセンス部長 野口 知子 氏
11 月 21 日（金）	著作権制度の概要 事業活動と著作権 ※文化庁、浜松市への支援	・文化庁著作権調査官： 弁護士 小坂 準記 氏 ・弁護士 神谷 信行 氏
2 月 10 日(火)	米国特許法改正が与える日本企業への影響（第２弾） ～米国特許法改正と実務上の戦略・問題点～	快友国際特許事務所 パートナー弁理士 椿 和秀 氏

②講習会

初心者向け「知財基礎講習会」として、企業の新任知財担当者や技術者を対象に以下の内容で実施（はままつ知財研究会との共催）。

内　　容：全 6 回（平成 26 年 6 月～平成 27 年 2 月）のコース

講　　師：当財団知財コーディネーター

アドバイザー　はままつ知財研究会幹事

受講者数：12 社（各種機関を含む）、17 名

	開催日	内　容
第 1 回	6 月 27 日（金）	・知的財産権制度の概要 ・知的財産に関する係争事例 ・特許制度と特許権 ☆グループ討議「企業にとって知財とは」について
第 2 回	7 月 23 日（水）	・特許出願～権利化の流れ ☆グループ討議「進歩性について」 ・特許権の事例紹介

第 3 回	8 月 29 日（金）	・特許権の権利範囲と権利解釈 ☆グループ討議「権利解釈について」 ・特許権の利用関係
第 4 回	10 月 31 日（金）	・意匠制度、商標制度の概要 ・特許情報調査と特許情報の活用 ・特許電子図書館を使用した特許情報等の検索実習
第 5 回	12 月 12 日（金）	・研究開発と特許出願 ☆グループ討議「発明ポイントの抽出と本質把握」について ・特許出願とノウハウ秘匿 ・他社権利対策と自社権利行使
第 6 回	2 月 20 日（金）	・第 5 回の宿題(発明ポイント抽出・整理)に対する解説 ・知財活動と知財（特許）戦略 ☆グループ討議「知財活動の目的、意義」について ・不正競争防止法 ・知的財産関連契約 ・まとめ

③特許庁「特許関係料金の減免制度・軽減措置」の説明会

日　　時：平成 26 年 7 月 29 日（火）　13：30～16：30

講　　師：関東経済産業局 特許室 地域知財活動調査員　飯村　豊氏

参加人数：10 社（各種機関を含む）、11 名

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 26 年度
①開催回数	10 回	11 回	10 回
②参加者満足度	88%	92%	90%

【総括】

地域企業の知財の活用、知財に関わる人材の育成のために、地域企業の要望を踏まえて上記のテーマにて講演会、講習会を開催した。参加者の満足度（有益度）は全体平均で 92%（参加者のアンケート結果による）であり、地域企業の知財活用に役立つ講演会、講習会が開催できたものと思料する。

また、平成 25 年度から開始した中小企業の新任知財担当者、技術者等を対象とした初心者向け「知財基礎講習会」については、平成 26 年度は講義回数を増やして全 6 回のコースとし、グループ討議を含めて内容の充実化を図った。

課題としては、知財の重要性を認識して取り組み始めている中小企業が少しずつ増えているものの知財意識のない中小企業がまだ多いため、中小企業の経営者等に対する知財啓発のための講演会の開催が重要と考えている。ただし、中小企業経営者の場合、「知財」「特許」を前面に出したテーマの講演会には積極的に参加してもらえないことから、経営者に関心、興味を持ってもらえるよう、経営や事業、ものづくり、技術開発等を切り口にしたテーマを設定し、その中に知財の重要性、必要性を盛り込むような工夫を行う。

(3) 特許等出願支援補助金事業

【目的】

中小企業の特許等の知的財産権制度を利用しやすくし、知的財産権を活用した事業展開を支援する。

【実施内容】

①補助金事業の説明会開催

日　　時：平成 26 年 6 月 17 日（火）午後　浜松商工会議所会館 B・C 会議室

参加者数：68 名

内　　容：ア．国内出願補助金…浜松市内の中小企業の国内特許出願、実用新案出願、意匠出願に対する出願費用の補助を行う（予算 1,000 千円）。

イ．海外出願補助金（新規）…浜松市内の中小企業で、国内で既に特許等の出願（PCT 国際出願を含む）を行っているものを対象として、外国特許庁への出願手数料、現地代理人費用、翻訳費用、先行技術調査費用等に対して補助を行う（予算 2,500 千円）。

②公募・申請受付　平成 26 年 6 月 2 日（月）～7 月 31 日（木）

平成 26 年 10 月 1 日（水）～10 月 31 日（金）（海外のみ 2 次募集）

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 26 年度
①国内特許等　申請件数	8 件	18 件	10 件
②国内特許等　採択件数	7 件	6 件	7 件
③海外特許等　申請件数	― 件	12 件	― 件
④海外特許等　採択件数	― 件	6 件	― 件

【総括】

国内特許等出願補助金については、申請件数が目標を大きく上回り、地域中小企業の特許出願及び本件補助金に対する認識が高くなっている。採択件数は予算の関係上平成 26 年度と同件数の 6 件となったが（採択件数は 7 件であったが、うち 1 件は採択後に類似の発明が出願公開されたため、出願見送りとなり、結果的に 6 件となった）、平成 27 年度は 50 万円増額し、採択件数目標を 10 件程度として本事業を実施する予定である。

また、海外特許等出願補助金については、浜松市が平成 25 年度に実施した事業を引き継いだものであるが、中小企業がより利用しやすいように要綱等の見直しを行った結果、申請件数が平成 25 年度の 1 件から 12 件と大幅に増加した。採択件数は 6 件であったが、特許だけでなく、意匠、商標もあり、中小企業の海外事業展開に伴う海外での権利取得の意識も高くなっている。平成 27 年度も中小企業の海外展開支援の一環として本事業を継続する。

なお、採択企業については、補助金対象案件の出願後のフォローアップや必要に応じて専門家派遣制度の活用なども行う。平成 25 年度の国内出願補助金採択案件のフォローアップを行ったところ、①意匠出願が登録され、製品カタログに意匠権の登録番号を記載するなどしてアピールしている、②この出願補助金の採択で特許出願したことを機に、その後の改良発明を独自に特許出願している企業もあり、中小企業にとって本補助金事業が役立っている。

(4) 「はままつ知財研究会」との連携（同研究会の事務局事業）

【目的】

「はままつ知財研究会」が開催する知財に関する研究部会活動等の各種事業を事務局として支援するとともに、同研究会との連携により、地域企業の知財活動の向上と知的財産関係の人材育成に取り組む。

【実施内容】

①総会の開催

日時：平成 26 年 6 月 6 日（水）午後

場所：浜松労政会館

内容：平成 25 年度事業報告及び収支決算、役員の異動、平成 26 年度事業計画及び収支予算案について審議。全議題について承認を得た。

②知財問題研究部会（IP 部会）

参加者数：142 名（研究会会員企業・特許事務所等）

開催回	開催日	内　容
第 46 回	5 月 9 日（金）	知財活動における交渉力について～交渉の心構え、ノウハウを学ぼう！～」
第 47 回	7 月 18 日（金）	・静岡県農林技術研究所見学会 ・「農工連携」における財活動についての意見交換会
第 48 回	9 月 5 日（金）	判例研究:国内優先権主張出願に関する判例紹介とその活用について
第 49 回	11 月 7 日（金）	“アイデアの発明化”～アイデア発想法、利益と元気を生み出すためのとっておきの話～
第 50 回	1 月 9 日（金）	判例研究：特許請求の範囲に数値範囲が記載されている場合の解釈について
第 51 回	3 月 6 日（金）	職務発明の帰属 法改正の動向について～法対応と発明者のインセンティブを考える～

【総括】

会員企業の知財責任者、担当者が幹事、委員として自ら企画、運営していることにより、会員にとって有益な活動ができた。部会参加者の満足度（有益度）は、全体平均で 97%（参加者のアンケート結果による）という高い評価を受けている。また、部会活動を通じて大企業、中堅企業、中小企業の知財担当者及び弁理士の交流が図られた。

課題としては、同研究会と当機構の知財活用推進事業は最終的には共通するところを目指しているが、それぞれの組織は独立した別体のものであるため、ぞれぞれの組織の位置付け、役割を踏まえつつ連携して事業を推進していく必要がある。このために、当機構と同研究会の役員との信頼関係構築と協議の充実化を更に図る。

(5) 特許流通支援事業　　＜静岡県＞

【目的】

中小企業等の経営資源としての保有特許の活用（ライセンス、アライアンス形成等）及び研究開発における外部資源の活用（特許技術導入等）について、静岡県特許流通アドバイザー等と連携して特許流通に関する支援を行う。

【実施内容】

当機構の知財コーディネーター、知財総合窓口支援担当及び静岡県特許流通アドバ

イザーが連携し、中小企業、個人からの保有特許の活用や外部資源の活用などの相談に対応した。なお、本事業は静岡県委託事業である。

平成 26 年度の相談対応件数は 12 件。

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 26 年度
特許流通支援件数	3 件	12 件	5 件

【総括】

特許流通支援には他機関との連携が必要であり、静岡県の特許流通アドバイザーと連携して対応している。

課題としては、特許ライセンスの相手が中小企業の場合、特許ライセンスだけでの事業化は難しく、ものづくりのための技術的支援、事業化のための販路開拓支援及びそれらのための金銭的支援などの総合支援が重要となる。昨今の“休眠特許の活用”に関する国、静岡県、金融機関の動きを見つつ、それら機関との連携及び特許流通アドバイザーとの連携で対応していく。

６【創る】新事業開発支援

１０　技術開発・新産業創出支援事業

決算額 8,845,3200 円（予算額 8,000 千円）＜浜松市＞

（1）浜松地域ＣＦＲＰ事業化研究会（参加企業 49 社）

【目的】

次世代環境車をはじめとして将来輸送機器全般に必要とされる軽量化・高強度化・高性能化に対応するため、特に炭素繊維強化プラスチック（CFRP）材料に関する技術動向・技術情報の提供を行うとともに、浜松地域企業における CFRP の活用について調査研究及び技術の確立を支援する。

【実施内容】

平成 25 年度に行った多品種少量生産に必要なユニディレクション（UD）テープ（一方向の炭素繊維に樹脂を含浸させたもの）の製造装置を用いて UD テープを製造し、会員企業での製品開発を行った。研究会の内容は、当初の勉強会から試作、製品開発へと事業化に向けた新たなフェーズへと段階を進めている。

≪研究会の実施≫　会場：静岡大学、イノベーション推進機構会議室ほか

①研究会・講演会

・第 8 回研究会（平成 26 年 4 月 24 日（木））

・第 9 回研究会（平成 26 年 7 月 24 日（木））

・第 10 回研究会（平成 26 年 10 月 29 日（水））

②UD プロジェクト

開催回数：7 回（平成 26 年 5 月 16 日（金）、6 月 5 日（木）、6 月 19 日（木）、6 月 25 日（水）、9 月 2 日（火）、10 月 15 日（水）、10 月 29 日（水））

内　　容：プロジェクト計画の討議、テープ成形実習、シート成形実習、装置改良の討議、新入会員、県助成金申請、新技術特許申請

③用途開発分科会

開催回数：1 回（平成 26 年 6 月 19 日（木））

開発製品：UD テープを利用した製品

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 26 年度
①総会・講演会の開催	4 回	3 回	2 回/年
②プロジェクト、部会、WG、分科会	2 回	8 回	2 回以上/研究会

【総括】

研究会は講師の都合により中止した 2 月を除き、計 3 回開催。各種の講演と会員企業紹介を行い、最新の技術情報の提供と会員間のマッチングを図ったほか、ソーシャルネットワークのサイボウズを利用して会員へ最新情報を配信した。UD プロジェクトでは、平成 25 年度に製作した UD テープ製造装置を用いて、UD テープの製造とそれを使った成形実習を実施した。さらにコストのかかる開繊作業を簡易に行う技術を発明し会員企業が特許を申請した。本特許を装置化し、浜松地域の事業とするために補助金の獲得を目指している。平成 27 年度早々に申請する方向で準備を進めていく。

CFRP は輸送機器の軽量化の主要技術の一つであり、中小企業が製品化・事業化を目指す上で最適な UD テープの技術確立に向けて取り組んできた。今後、培ってきた

技術の更なる高度化を図るとともに、事業化に向けた製品開発への応用を模索していく。

(2) 浜松地域チタン事業化研究会（参加企業：27 社、1 団体）

【目的】

次世代環境車をはじめとして将来輸送機器全般に必要とされる軽量化・高強度化・高性能化に対応するため、特にチタン材料に関する技術動向・技術情報の提供を行うとともに、浜松地域企業におけるチタンの活用について調査研究及び技術の確立を支援する。

【実施内容】

技術習得・人材育成及び技術シーズ探索を中心とした第 1 フェーズから移行し、本格的な事業化・製品化を視野に入れたプロジェクト、個別活動を中心に取り組んだ。

①講演会

ⅰ）「お客様との関係をデザインする次世代型ものづくり」

開催日：平成 27 年 1 月 19 日（月）
会　場：ホテルクラウンパレス浜松
講　師：セブン&セブン　鶴本 昌子 氏
参加者数：約 70 名
共　催：CRP 研究会

チタン製真空 2 重カップの企画、ブランディング、販路開拓など一貫した製品開発の講演は受講者に大きなインパクトを与えた。

ⅱ）(一社) 日本チタン協会から、浜松地域のチタン開発事例紹介の要請があり、チタンマフラーの開発について講演を行った。

名　称：夏期賛助会員総会・研修会・交流会
開催日：平成 26 年 7 月 24 日（木）
会　場：学士会館（東京）
講　師：株式会社榛葉鉄工所　代表取締役社長　榛葉 貴博 氏
参加者数：約 160 名

名　称：冬期賛助会員総会・研修会・交流会
開催日：平成 27 年 2 月 26 日（木）
会　場：学士会館（東京）
講　師：株式会社榛葉鉄工所　代表取締役社長　榛葉 貴博 氏
参加者数：約 160 名

②部会、プロジェクト活動

ⅰ）ラドル

アルミニウム溶湯を給湯するチタン製ラドルの製作を事業化する。橋本エンジニアリング㈱と㈱榛葉鉄工所が協力し、ラドルの加工をスピニング成形とホットプレスを組み合わせることで試作に成功した。また、独自開発した表面処理方法を浜松工業技術支援センターにて解析評価した。試作として 5 種類のラドルを作製販売した。ノロ掬いも順調に販売を伸ばしている。8 月に行われた本田技研工業での展示会に出展した。

ⅱ）技術の水平展開

㈱タケモトから鰹節削り器のケースをチタンで作成したいとの企画が提案された。㈱榛葉鉄工所で試作を検討するが、デザイン、マーケッティング、商品コンセプトなどを最初から考えながら行うよう討議を開始し、デザイナーとの討議

を設定した。また、キッチンシンクのチタン化の話もあり、今後検討を進める。

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成25年度	平成26年度	平成26年度
① 総会・講演会の開催	2回	1回	2回/年
②プロジェクト、部会、WG、分科会	0回	2回	2回以上/研究会
③売上げ	300千円	6,000千円	30,000千円（3年間）
④特許、意匠登録	0件	0件	3件（3年間）
⑤技術論文、リーフレット、ポスター他	0件	0件	3件（3年間）
⑥その他（補助金獲得、新聞発表）	5件	0件	3件（3年間）

【総括】

軽量化の主要技術であるチタンの加工は、他の軽量素材と併せて研究を進めることで一層の効果が期待される。現在、浜松地域でチタンの取り組みを行っている企業は極めて少なく、共同体形式での活動を行うのは難しいが、個別企業からの支援要請はあることから、研究会の形で企業同士や他の事業化研究会との連携を通じた活動を進め、地域レベルで技術ノウハウを蓄積していくことが重要と考えている。

本研究会活動に伴う会員企業の製品・試作品等の販売実績は平成27年3月末時点で約790万円であり、チタン加工により製品開発したラドルの市場規模は海外を含めて100億円以上と推測され、他の製品への応用も含め、会員企業の売り上げにつながることが期待される。

(3) 浜松地域マグネシウム事業化研究会（参加企業：14社）

【目的】

次世代環境車をはじめとして将来輸送機器全般に必要とされる、軽量化・高強度化・高性能化に対応するため、特にマグネシウム材料に関する技術動向・技術情報の提供を行うとともに、浜松地域企業におけるマグネシウムの活用とその成形技術について研究開発及び知識・技術の習得をもって、参画企業の製品化・事業化を図る。

【実施内容】

車椅子プロジェクトは、製品化を目指す「世界最軽量車椅子」の3次試作を平成27年3月までに終え、4月のバリアフリー展、10月の国際福祉機器展などに出展し、販売を前提に展開する。

①総会・講演会

ｉ）第2フェーズキックオフ総会・講演会

開催日：平成26年9月12日（金）

会　場：ホテルクラウンパレス浜松

講演①「マグネシウム合金展伸材の製造技術と用途開発～三協マテリアル社における取り組み～」

三協立山㈱三協マテリアル社

技術開発統括室基盤技術部㈱製品技術部　部長　花木悟氏

講演②「マグネシウム合金展伸材特性と適用事例」

日本金属㈱　技術部門部　技術研究所　研究第一グループ
主査　佐藤 雅彦 氏
講演③「見えてきたマグネシウム鍛造の技術と製品」
宮本工業株式会社　技監　関口 常久 氏
講演④「難燃性マグネシウム合金形材を用いたミニ・ヴィーグル試作」
木ノ本伸線㈱　マグネシウム開発チーム技術部長　上田 光二 氏
講演⑤「茨城におけるマグネシウムに関する取り組み」
茨城県工業技術センター　先端材料部門 主任研究員　行武 栄太郎 氏
参加者数： 約 70 名
※第 2 フェーズからの新規会員を募集し、新たに 12 社が参加した。

ⅱ）安全講習会「マグネシウムの切削加工と消火方法 in 浜松」
開催日：平成 27 年 1 月 27 日（火）
会　場：浜松商工会議所 10 階会議室
講習①「マグネシウムの特性と安全な取り扱い」
伊藤技術士事務所　伊藤 茂 氏
講習②「マグネシウム切削加工の安全対策」
都立工業高等専門学校　嵯峨 常生 氏
講習③「マグネシウム製造の安全対策について」
㈱東海理化　開 幸裕 氏
講習④「マグネシウム合金火災用自動消火システム」
㈱初田製作所　柏倉 一裕 氏
講習⑤「マグネシウム用の集塵機について」
アマノ㈱　中根 隆一 氏
講習⑥「金属用消火器と最適消火方法について」
モリタ宮田工業㈱　内藤 雄一 氏
講習⑦「事故例と安全対策について」
（一社）日本マグネシウム協会　小原 久 氏
主　催：一般社団法人日本マグネシウム協会
共　催：浜松地域マグネシウム事業化研究会
参加者数：約 70 名
※町田市においてマグネシウム火災が発生したことから、(一社)日本マグネシウム協会が緊急に安全講習会を開催した。

ⅲ）「REHACARE2014」（ドイツ）の視察報告会
開催日：平成 26 年 11 月 12 日（火）
会　場：浜松地域イノベーション推進機構セミナー室
講　師：橋本エンジニアリング㈱　大城 徳彦 氏
参加者数： 約 20 名
※開発した「超軽量車椅子」の海外展開を念頭に、先進地域欧州の動向調査を行い展示会出展での日本との差異などを共有した。

②現場見学会
３つの現場見学会を予定していたが平成 26 年度は実現させることができなかった。菊水フォージングについては承諾が得られなかった。茨城マグネシウム研究会と三協マテリアルについては、日程があわずに平成 27 年度に延期することになった。

③車椅子プロジェクト
ⅰ）受賞、マスコミ報道、専門誌掲載、講演

・(一社) 日本マグネシウム協会　技術賞を浜松地域マグネシウム事業化研究会が受賞。
・2014 年度グッドデザイン賞 未来づくりデザイン賞を橋本エンジニアリング㈱が受賞。
・読売新聞、中日新聞、静岡新聞に掲載
・静岡テレビ、NHK で取材放映
・塑性加工学会誌 塑性と加工 Vol. 55 (2014) No. 644 p. 825-829 に「地域連携による超軽量車椅子の開発」を掲載（山田コーディネーター、橋本エンジニアリング㈱が執筆）
・講演「地域連携による超軽量車椅子の開発」
　開催日：平成 27 年 2 月 13 日（金）
　会　場：グランメッセ熊本
　講　師：浜松地域イノベーション推進機構　山田 徹
　主　催：(一社) 日本マグネシウム協会　九州支部他
　参加者数：約 50 名

ⅱ）展示会出展
・「REHACZRE2014」（ドイツ デュセルドルフ、平成 26 年 9 月 24 日～27 日）
・「バリアフリー2015」（インテックス大阪、平成 26 年 4 月 17 日～19 日）
・「国際福祉機器展」(東京ビックサイト、平成 26 年 10 月 1 日～3 日)
・「バイクのふるさと浜松 2014」(浜松市総合産業展示館、平成 26 年 8 月 23 日～24 日)
・「大阪モーター―サイクルショー」(インテックス大阪、平成 27 年 3 月 20 日～22 日)

ⅲ）生産体制の構築
・主要 3 社（橋本エンジニアリング㈱、㈱榛葉鉄工所、㈱キャップ）にて、新連携計画（異分野連携新事業分野開拓計画）の補助金（3,000 万円、2/3 補助）を獲得した。

④技術の水平展開、プロジェクト創出

ⅰ）パワーアシストスーツ用部品への展開
・有名ベンチャー企業に軽量化提案を行ったところ、CFRP 部品、マグネシウム溶接構造品とダイカスト品の試作を受注し、対応した。
　新プロジェクト化を検討中。

ⅱ）日本発「難燃性マグネシウム」の溶接棒は溶接が難しく実例が少なかった。(一社) 軽金属溶接協会にて、国際規格にするプロジェクトに、研究会として参画し、ノウハウを提供することで研究会の企業が実施しやすい方法を国際規格として提案することにつなげた。

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 26 年度
①総会・講演会の開催	2 回	3 回	2 回/年
②工場見学会	2 回	来期に延期	2 回/年
③プロジェクト、部会、WG、分科会	プロジェクト推進会議 5 回 部会活動 2 回	プロジェクト推進会議 3 回 部会活動 3 回	3 回以上/研究会
④売上げ	0 千円	13,625 千円	30,000 千円（3 年間）

⑤特許、意匠登録	2 件	0 件	3 件 (3 年間)
⑥技術論文、リーフレット、ポスター他	3 件	論文 1 報	3 件 (3 年間)
⑦その他 （補助金獲得、新聞発表）	補助金 2 件 新聞、TV4 件	補助金申請 1 件	3 件 (3 年間)

【総括】

車椅子は、平成 26 年 10 月開催の国際福祉機器展に出展し、好評を博した。車軸周りを一部補強し、モニター販売を実施する。また、今後の本格的な生産を見据え、主要 3 社による新連携計画（異分野連携新事業分野開拓計画）の認定を受け、その補助金により体制を整える予定である。

また、今回開発した技術を水平展開すべく、学会誌への論文投稿、講演、新聞報道などを積極的に行っているほか、難燃性マグネシウム溶接棒の国際規格提案に取り組んでいる。

平成 26 年度は、車椅子に関し、数々の賞を受け、TV 番組でも多数回取り上げられ、研究会として、大きな成果を上げた。また新連携の補助金も獲得し、生産販売計画を、具体的に進めている。一方ここで開発した技術を水平展開すべく、パワーアシストスーツを製品化している有名ベンチャー企業にプレゼンしたところ、すぐに試作品の受注につながった。このような動きを今後拡大し、技術を応用した他の製品化につなげていきたい。

本研究会活動に伴う会員企業の製品・試作品等の販売実績は平成 27 年 3 月末時点で約 1,330 万円。

(4) 浜松地域ウルトラハイテン事業化研究会（参加企業：15 社）

【目的】

次世代環境車をはじめとして将来輸送機器全般に必要とされる、軽量化・強度化・高性能化に対応するため、特にウルトラハイテン材に関する技術動向・技術情報の提供を行うとともに、浜松地域企業におけるウルトラハイテンの活用について調査研究及び技術の確立支援を推進する。

【実施内容】

①総会・講演会

ｉ）第 2 フェーズの総会、特別講演会

講演会「ハイテン材の最新動向とそれを取り巻く型技術」

開催日：平成 26 年 8 月 8 日（金）

会　場：オークラ アクトシティホテル浜松

講演①「自動車用ハイテンとその適用技術の現状と今後の動向」

新日鐵住金株式会社 技術開発本部

名古屋技術研究部長 Ph.D　樋渡 俊二 氏

講演②「日産自動車における超ハイテン材適用動向」

日産自動車株式会社 要素技術開発本部

車体技術開発部　シニアエンジニア　千葉 晃司 氏

講演③「世界で戦える日本の型技術」

トヨタ車体株式会社 取締役 専務執行役員　川田 康夫 氏

参加者数： 約 170 名

※総会を開催し、成形部会の活動を報告した。新規会員を募集したところ、㈱サンヨーエンジニアリング、㈱三幸製作所が、新規参加。また浜松工業

技術支援センターでもハイテンの成形を研究しているため参加を要請し承諾を得た。

ⅱ）新春特別講演会「ホンダ・イノベーションの真髄を語る」

開催日：平成 27 年 1 月 16 日（金）

会　場：オークラ アクトシティホテル浜松

講演①「創造する『心』の旅路を探る」

本田技研工業㈱　3 代目社長　久米 是志 氏

講演②「ホンダ・イノベーションの実践」

㈱本田技術研究所　社長　山本 芳春 氏

参加者数： 約 450 名

※参加者は約 450 名に達し当財団始まって以来の大盛況であった。

②工場見学会

ⅰ）アイシン精機㈱

開催日：平成 27 年 2 月 26 日（木）

場　所：コムセンター、新豊工場

参加者：36 社、33 名

※生産技術革新への優れた取り組みなどを視察することにより、当地域の特長を活かした事業を推進して頂く刺激となった。

ⅱ）㈱浜名ワークス

開催日：平成 27 年 3 月 20 日（金）

場　所：㈱浜名ワークス

参加者：13 名

※ハイテンの新用途開発を目的に実施した。

③成形部会

ⅰ）CAE 解析

新日鐵住金㈱と折衝し、1,180MPa ハイテンのサンプル及び物性データの提供を依頼し快諾を得た。これにより各社で CAE を実施。

ⅱ）成形トライ

実施日：平成 26 年 8 月 26 日

協和工業㈱で成形トライを行った。全ての工程でクラックを発生することなく成形できた。同時に歪計測も行い、CAE との相違を討議した。

ⅲ）新日鐵住金㈱への報告会開催

同社提供の 1,180MPa ハイテンを、当部会でコンピューターシミュレーションや成形試作した結果を報告し、その差異について議論し、有益なアドバイスを頂いた。

④新規ニーズ発掘と今後の活動

自動車関連における共通で取り組む技術分野と各社で取り組む分野について基本方針を確認した。

ⅰ）自動車分野：ハイテン化の急先鋒であるシートメーカーとその試作メーカーと接触し、協力してトライする方向で調整を開始した。

ⅱ）トラック分野：㈱浜名ワークスを訪問し、ハイテン化の対象を検討した。

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 26 年度
①総会・講演会の開催	―	3 回	2 回/年
②工場見学会	―	2 回	1 回/年
③プロジェクト、部会、WG、分科会	成形部会（プロジェクト推進会議）3 回	成形部会 12 回	1 回以上/研究会
④売上げ	―	0 千円	30,000 千円（3 年間）
⑤特許、意匠登録	―	0 件	3 件（3 年間）
⑥技術論文、リーフレット、ポスター他	―	助成金申請予定	3 件（3 年間）
⑦その他（補助金獲得、新聞発表）	―	2 件	3 件（3 年間）

【総括】

ハイテンに関する講演会及び新春特別講演会は、いずれも国内トップクラスの講師陣を招き、聴講者だけでなく講演関係者にも高い評価を得るとともに、その後の講師企業との連携につながった。

当研究会成型部会における 1,180MPa ハイテンの冷間成形結果やメンバー企業と静岡大学による CAE についての成果を得て新日鐵住金㈱へ報告し、高い評価を頂いた。このような産学官が連携してハイテンの研究開発を行っている例は国内で稀有であり、技術確立に向けて着実に進んでいる。今後は、新日鐵住金㈱の全面協力を得ながら応用できる製品を模索するために自動車のほか、非自動車用途にも展開したい。

（5）浜松地域パワーエレクトロニクス事業化研究会（参加企業：42 社）

決算額 2,742,671 円（予算額 2,000 千円）＜浜松市＞

【目的】

パワーエレクトロニクス（パワエレ）技術を積極的に取り込もうとする事業所への“事業化支援”を大幅に強化し、地域への定着及び新事業の創出を狙う。

【実施内容】

浜松地域の輸送用機器産業において要求されているエレクトロニクス化に対応するため、EV 車やサービスロボット、新エネルギー発電等、パワエレ技術の事業化に重点を置いた支援を実施した。

①アシスト型台車プロジェクト

アシスト型台車プロジェクトは、参画企業が浜松市新産業補助金を獲得し、プロトタイプ試作の各社担当部分を予定通り完了、電装系の結合及び機構系の結合もほぼ日程通り進行し試作完了した。

ⅰ）アシスト型台車のプロトタイプの試作・評価を中核企業 1 社、協力企業 4 社、共同研究 1 大学の体制で進めた。

ⅱ）4 つの構成要素（制御ボード、モータドライブ回路、機構関係（ギアボックス等）、制御ソフトウェア）の個別動作検証完了し、電装系及び機構系の結合を完了、動作及び特性評価まで実施した。

モータ特性評価測定会、CPU/OS 検討会、プロジェクト特化講座（制御プログラム開発技術講座＠静岡理工科大学/高橋教授)、個別要素技術会議（ピンア

サイン、センサのフィードバック対策会議）を実施した。

②技術講演会・総会

開催日：平成 26 年 9 月 29 日（月）

会　場：呉竹荘

講演①：「電動車両開発のゆくえ」

元スズキ（株）SENIOR ADVISOR、中津川 恒生 氏

講演②：「パワーエレクトロニクスの今日的な意味、変換器と素子の動向、車、航空機の電動化への対応技術としてのモータとその制御の動向」

中部大学理事長付特任教授　松井 信行 氏

参加者数：約 80 名

③講演会「今、浜松でパーソナルモビリティを考える」

開催日：平成 27 年 3 月 9 日（月）

会　場：グランドホテル浜松

講演①：「福祉を超えるパーソナルモビリティのデザインと日本への導入」

㈱グラディエ　代表取締役社長　磯村 歩 氏

講演②：「産業を活性化する地域の事例紹介」

静岡理工科大学　教授　高橋 久氏

講演③：「ＵＤ＋なパーソナルモビリティへの期待」

静岡文化芸術大学　教授　谷川 憲司 氏

参加者数：　約 80 名

④制御ソフトウェア技術講座

開催日：平成 27 年 3 月 4 日（水）～5 日(木)

会　場：浜松職業能力開発短期大学校（ ポリテクカレッジ浜松 ）

講　師：静岡理工科大学　大学院理工学研究科　教授　高橋 久 氏

静岡理工科大学　大学院理工学研究科　講師　山本 健司 氏

ルネサス エレクトロニクス㈱

グローバルセールス・マーケティング本部

教育推進部　教育第二課　佐藤正幸 氏

内　容：モータの基本的な利用法や制御回路の設計法。永久磁石同期モータのスカラー制御やベクトル制御を座学と実習にて技術習得。

参加者数：約 15 名

⑤その他

研究会会員である大手移動体メーカーＹ社(技術開発部門)と、浜松地域のモータ専業メーカーとの企業マッチングを実施し、試作開発を行うことで合意した。

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 26 年度
①総会の開催（年 1 回）	―	9/29 実施 (17 名参加)	9 月実施
②技術講演会の開催　年 1 回	―	9/29 実施 (72 名参加) 3/4･5 実施 (12 名参加) 3/9 実施 (80 名参加)	9 月、2～3 月の 2 回実施

③アシスト型台車（プロトタイプを試作・評価）	―	・補助金獲得 プロトタイプ試作完了	・補助金獲得 ・プロトタイプ試作完了３月

【総括】

技術講演会について、地域特性を考慮したモータに関する内容に絞ることで、当地域における技術開発の方向性を示し、参加者から高い評価を得た。また、技術講座に関してはモータ制御に特化した内容設定と実習の強化により、技術レベルの向上を図った。

アシスト型台車の開発においては、プロジェクトの参画企業が浜松市新産業補助金を獲得して開発費を確保するとともに、静岡理工科大学の協力により技術的な課題をクリアし、プロトタイプの試作にこぎつけるなど、プロジェクトの活動が地域企業の開発促進に結びついている。今後は製品化に向けて課題を整理して進めていく。

なお、平成 27 年度は、アシスト台車プロジェクトのように用途を見極めた製品開発の支援を軸に進めていく。そのため、パーソナルモビリティや小型無人航空機など、製品を見据えた調査検討を行う。

１１　新産業創成事業

決算額 5,499,684 円（予算額 8,000 千円）＜浜松市＞

（1）事業化可能性調査費補助金

【目的】

浜松市において戦略的に支援すべき産業分野として位置付けている成長６分野※1において、浜松市内の中小企業者が新たな技術や製品を事業化するために実施する事業化可能性調査（原理実証試験、技術調査、市場調査、類似製品・特許調査等）に対して、補助金を交付する。これにより、中小企業者の独創的な新技術開発や新製品開発を促進する。

※1…次世代輸送用機器、健康・医療、新農業、光・電子、環境・エネルギー、デジタルネットワーク・コンテンツ

【実施内容】

・補助金事業の説明会、相談会開催
　平成 26 年 6 月 17 日（火）午後　浜松商工会議所会館Ｂ・Ｃ会議室
　参加者数：68 名
・公募期間　平成 26 年 6 月 2 日（月）～7 月 4 日（金）
・申請件数　9 件（内 2 件は辞退）
・審査会
　平成 26 年 7 月 31 日（木）午後　（公財）浜松地域イノベーション推進機構
・採択企業　5 件
・成果報告会　平成 27 年 3 月 10 日（火）

＜補助金交付確定額　4,284,689 円＞

（単位：円）

企業名	研究開発事業	確定額
ナノ・ミール㈱	「次世代二次電池の実現に向けたポリスチレンナノ粒子の市場調査」 ［内容］電池市場でポリスチレンナノ粒子の販売先の明確化 ［成果と今後］日本硝子㈱等、ターゲットの絞り込みができたほか、電池以外での用途（セラミック多孔体、バイオ、塗料等）へ展開できることが判明し、事業化の可能性が見えてきた。	450,000
㈱クリエイティブ・システム	「インドネシアにおける輸送機器用組立専用機の製作・保全体制構築の可能性調査」 ［内容］今後の事業展開及び将来の企業発展を目的として、インドネシアにおいて組立専用機の製作及び設備保全業務を行う現地法人の設立計画の妥当性について現地調査を含む FS 調査 ［成果と今後］１億円以上の総投資額の必要性や現地へのスタッフ派遣の困難さ、新設ラインは国内発注が基本で製造原価の低減化が期待できないという点から、インドネシア進出の実現性は低いと判断した。しかし現地の情報収集、保全窓口の構築は行っていく予定である。	1,000,000
㈱桜井製作所	「両頭フライス等自社開発商品の事業化調査」 ［内容］新規開発をした自社製品の取引拡大や航空業界等の未開拓市場への参入のための戦略的な市場調査 ［成果と今後］日本国際工作機械見本市（JIMTOF）に出展し、テスト加工依頼を多数受けた。航空業界や、今まで取引のなかった建築業界からの引き合いもあったが、多くは自動車部品メーカーであった。今後は量産加工における安定した加工精度の維持、知財について検証をしていく。	1,000,000
浜口ウレタン㈱	「レスキューの安全性を高める硬質ウレタン注入ボートの製品開発と市場調査」 ［内容］硬質ウレタン注入ボートの有効性検証による事業化可能性の調査 ［成果と今後］国内、海外での市場調査・デモ等の結果、消防レスキューでの利用が最も特性を活かせることが判明した。今後は、機能要求を組み込んだオリジナルデザインボートの開発を進める。	1,000,000

橋本エンジニアリング㈱	「マルチマテリアル車いす「MC－X」のヨーロッパ市場への進出」 ［内容］マルチマテリアル車いす「MC－X」の拡大を図るため、世界最大の福祉機器展「リハケア 2014」をメインに海外市場を調査 ［成果と今後］欧州市場では、リジットタイプで乗り心地の良いものが好まれ、日本とは違い剛性、耐久性、衝撃吸収性が求められていることが分かった。今後、医療機器の欧州進出に必要な「ＣＥマーク」や工業規格「TÜV 規格（テュフ・ラインランド）」の取得をして、市場の特性を考慮しながら事業化を進めていく。	834,689
計		4,284,689

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 26 年度
①申請件数	9 件	9 件	10 件
②提案採択件数	4 件	5 件	5 件

【総括】

採択企業は、予備的技術開発や市場調査により、事業化可否のめどをつけることができた。今後は、採択企業に対して、事業化の促進を図るため、技術指導等のフォローアップや販路開拓、専門家や助成金制度等の紹介を含めて支援を行っていく。

(2) ３D 勉強会の開催

【目的】

浜松市、浜松イノベーションキューブ、静岡文化芸術大学と連携して、地域企業への 3D テクノロジーに関する情報提供や意見交換を行うことにより、地域企業の技術開発や事業展開を促進する。

【実施内容】

勉強会を 5 回、ワークショップを 4 回開催した。これらの活動を通じて、参画企業及び大学の開発機運が高まり、平成 26 年度の経産省の「戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン）」に、参画企業が中心となって取り組む研究開発を提案し採択された。

・第 1 回勉強会

日　時：平成 26 年 4 月 11 日（金）13:30～17:00
場　所：静岡文化芸術大学
出席者：56 社、70 名
内　容：テーマ 1　金属 3D プリンター先進活用事例
講師　近畿大学次世代基盤技術研究所 教授 京極 秀樹 氏
テーマ 2　3D プリンターのソフトウェアと造形技法
講師　静岡文化芸術大学　教授　望月 達也 氏

・第 2 回勉強会

日　時：平成 26 年 4 月 25 日（金）13:30～17:30
場　所：静岡文化芸術大学
出席者：10 社、15 名

内　容：テーマ　5 軸加工機技術の 3D プリンターへの応用
講師　榎本工業㈱　川村 健広 氏

・第 3 回勉強会
日　時：平成 26 年 5 月 29 日（木）16:30～18:00
場　所：静岡文化芸術大学
出席者：10 社、15 名
内　容：テーマ　5 軸 CAM のソフトについて
講師　㈱モアソンジャパン　鍵谷 郷 氏

・3Dプリンター　ワークショップ
日　時：平成 26 年 5 月 16 日（金）、5 月 23 日（金）、5 月 30 日（金）、
6 月 13 日（金）14:00～17:30
場　所：静岡文化芸術大学
出席者：計　11 社、16 名
内　容：テーマ　データ作成から積層造形までのプロセスを実体験
講師　静岡文化芸術大学　教授　望月 達也 氏

・第 4 回勉強会
日　時：平成 26 年 7 月 10 日（木）15:00～17:00
場　所：静岡文化芸術大学
出席者：8 社、11 名
内　容：テーマ　REPRAP、造形パスの作り方、材料に応じたコントロールについて
講師　合同会社 Genkei　CEO/Concepter　加藤 大直 氏
APISTEC　佐々木 隆太 氏

・第 5 回勉強会
日　時：平成 26 年 8 月 29 日（金）13:30～16:00
場　所：静岡文化芸術大学
出席者：33 社、39 名
内　容：テーマ　マテリアライズ社のソフトウェア
講師　㈱マテリアライズジャパン　小林 毅 氏

≪サポイン採択案件≫
テ ー マ：同時 5 軸制御 Additive Manufacturing（加法的製造）による
Light Weight Structure（軽量構造）の実現
研究機関：榎本工業㈱、㈱C&G システムズ、静岡文化芸術大学
管理機関：浜松地域イノベーション推進機構

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 26 年度
出席者数	97 名	168 名	120 名

【総括】

平成 25 年秋から 3D プリンターの勉強会を組織し、地域として新しいプロジェクトを起こすために議論を重ねてきた。静岡文化芸術大学の望月達也教授の同時 5 軸制御加工技術を応用した 3D プリンターの開発の呼びかけに 2 社が応じ、プロジェクトが始まるなど、地域企業の技術開発や事業展開の促進につながっている。平成 27 年度上半期には製品化される予定である。今後、このような能動型の新しいプロジェクト形成が、さらに重要と思われる。

(3) 薬用植物の植物工場プロジェクト検討

【目的】

浜松地域における薬用植物の栽培（農業用施設、植物工場）の可能性を検討し、生薬としての活用のみならず、薬膳料理や高機能食品への活用などを模索することにより、地域活性化につながる新たな産業の創出を図る。

【実施内容】

勉強会を2回開催し、中国及び日本の薬用植物の現状確認や浜松地域における課題抽出、市場性の検討などを行った。

・第1回勉強会

日　時：平成26年11月19日（水）

内　容：有限会社日本東医薬養生研究院との勉強会

・第2回勉強会

日　時：平成27年2月12日（木）

内　容：松浦薬業株式会社との勉強会

【総括】

植物工場栽培の技術確立が現時点では不明であり、参画企業の少なさや資金面の確保、法律面の問題などにより、薬用植物の栽培は断念せざるを得ないとの結論に達した。

１２　次世代環境車推進事業

決算額517,401円（予算額600千円）＜浜松市＞

【目的】

平成24年9月に活動を終了した「はままつ次世代環境車社会実験協議会」の後継事業として、輸送機器関連企業を対象に、車を取り巻く新しい環境や技術開発に関する情報や意見を収集・交換する場を提供し、今後の技術開発、事業展開を促進する。

【実施内容】

部品業界の最新動向に関するセミナーを開催し、当地域の特徴を生かした将来の事業の可能性を検討する。

①次世代環境車フォーラム講演会

日　時：平成26年9月30日（火）13：30～17：00

場　所：ホテルクラウンパレス浜松

参加者：91社、120名

内　容：講演１　自動車部品の開発、求められる要件設定やニーズ把握と技術提案について

講師　（一社）日本自動車部品工業会 顧問　松島 正秀 氏

講演２　部品サプライヤーとしての次世代自動車への開発の取組み

講師　小島プレス工業㈱　取締役　鈴木 隆領 氏

②アイシン精機㈱工場見学会開催

目　的：生産技術革新への取り組みなどを視察することにより、当地域の特長を活かした事業を推進する。

日　時：平成27年2月26日（木）

場　所：コムセンター、新豊工場

参加者：36社、33名

※浜松地域ウルトラハイテン事業化研究会と共催

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成25年度	平成26年度	平成26年度
セミナー参加人数	81名	110名	85名

【総括】

平成 24 年度に「はままつ次世代環境車社会実験協議会、部品制御技術開発部会」が終了した後、「次世代環境車」に関する勉強会やセミナーなどを開催してきた。この間、EV、情報化、部品技術動向などタイムリーな話題を提供し、「次世代環境車」の普及と啓発に努めた。当初の目的を達成し平成26年度をもって活動を終了する。

１３　地域イノベーション戦略推進事業（浜松･東三河ライフフォトニクスイノベーション）

決算額 193,846,716 円（予算額 209,047 千円）＜国・事業参加負担金＞

【目的】

「浜松・東三河ライフフォトニクスイノベーション」構想に基づいて、光・電子関連技術を基盤に「輸送機器用次世代技術産業」「健康医療産業」「光エネルギー産業」「新農業」の 4 つの産業の基幹産業化を推進する。

【実施内容】

文部科学省の採択を受けた「地域イノベーション戦略支援プログラム」を推進し、4 つの戦略分野（輸送機器用次世代技術産業、健康・医療関連産業、光エネルギー産業、新農業）の基幹産業化を図るため、事業ごとに主体企業を中心としたまとまり（ユニット）を形成し、事業化に向けて強力に支援する。

平成 27 年 3 月末現在、ユニット候補として 24 件の事業を立ち上げ、その内の 12 件が、既にユニット化しており、引き続き地域連携コーディネーターが競争的資金の獲得や事業化に向けて支援するとともに、新たなユニット候補の発掘も進めていく。

さらに、世界市場への出口戦略を構築するため、「国際技術動向調査ユニット」により、地元技術の海外での評価や市場動向に関しての調査を行う。当財団とテューリンゲン経済振興協会及びオプトネット協会との産業交流協定（MOU）に基づき、まず浜松地域の 9 社の最新企業情報を提供し、かつ具体的な実行項目として双方企業の英文情報交換システムを構築していくことを確認した。また、ドイツ・イエナ市の企業情報の提案を受けて、平成 26 年 9 月にはイエナ市を訪問し非球面レンズのトップメーカーである現地企業を訪問した。同企業は、10 月に来浜し、浜松の地域企業との密接な打ち合わせを実施した。また、平成 26 年 11 月にドイツ・テューリンゲン州開発局（LEG）が浜松の地域企業を訪問した。今後は、JETRO のプログラムである地域間交流支援（RIT）事前調査事業の中で、イエナ、ベルリンを含めたドイツ市場への出口戦略を議論していく。

平成 26 年 12 月には文部科学省による本プログラムの中間評価が行われ、その結果、「B 評価」という非常に厳しい評価を受けた。残された事業期間には、国際競争力の高い事業化ユニットに資源を集中し、事業化・自立化に全力を傾注していく。

また、平成 27 年 3 月には、「浜松・東三河ライフフォトニクスイノベーション」のこれまでの取組を地域に広く紹介し、浜松地域における新産業につながる革新的イノベーションをどのような考え方で、どのように創出したらよいか、地域で意識共有するため、事業報告会を開催した。

今後も、地域で主体的に実施している以下の活動と密接に連動させることで、地域に持続可能な活動の展開となることを目指していく。

(1) 異分野・他分野融合の場「知のプラットフォーム」

アリーナ事業として、地域産学官金が事業化ユニットの課題及び解決策を議論し、事業化を推進する。

ア　コーディネート活動

	取組内容	訪問企業数		秘密保持契約締結数
		延企業数	実企業数	
①輸送機器用次世代技術産業	・「スキンシップの機会を増やし人に優しい電動車いす」事業化開発 ・介護ロボット事業化プロジェクト	120 社	43 社	5 件
②健康医療産業	・事業化ユニット（構想を含む）は 5 テーマ進行中であり、平成 27 年度には 2 テーマが発売予定。革新的テーマとしては、内視鏡外科手術支援システムの先行技術調査を完了。	180 社	106 社	3 件
③光エネルギー産業	・知的クラスター事業成果の事業化ユニット活動 ・販路開拓支援活動 ・外部資金獲得支援活動 ・ベンチャー企業支援活動	149 社	61 社	9 件
④新農業	・世代植物工場で利用が期待される、超微細霧化栽培技術（事業化ユニット済み）と省エネ高機能照明技術（事業化ユニット予定）の開発に関し活動支援中。	270 社	136 社	5 件
合　計		719 社	346 社	22 件

イ　イノベーションアリーナ運営会議の開催

イノベーションアリーナ運営会議を 4 回、支援チーム会議を 6 回開催し、アリーナ活動の全体管理・調整を行った。

ウ　事業化検討セミナー等の開催

地域企業に対してセミナーを 36 回開催した。

番号	開催日	テーマ	参加者数等
1	平成 26 年 4 月 17 日（木）	第 7 回電子回路設計者向け技術セミナー in 浜松「IoT 技術を活用した近未来組み込みモノづくり編」	18 名
2	平成 26 年 5 月 13 日（火）	第 2 回 KRJP セミナー 介護/福祉ロボットに対する政府政策と各種ロボット紹介	12 名
3	平成 26 年 5 月 27 日（火）	第 1 回事業化セミナー in 浜松「亜臨界アミノ酸液肥化事業の展望と地域間連携」	20 名
4	平成 26 年 6 月 6 日（金）	第 8 回電子回路設計者向け技術セミナー in 浜松「基板設計で抑えておきたい EMC ノイズ対策編」	51 名

5	平成 26 年 8 月 7 日（木）	第 3 回 KRJP セミナー 自分たちの道具は自分たちで作る：エンパワーメントとしての支援技術	13 名
6	平成 26 年 8 月 19 日（火）	医療関係セミナー 今秋施行「医薬品・医療機器等法」対策セミナー	34 名
7	平成 26 年 8 月 26 日（火）	第 4 回 KRJP セミナー 脳血管障害：運動麻痺と上肢リハビリ	8 名
8	平成 26 年 9 月 18 日（木）	医療関係セミナー 医療機器産業参入のための ISO13485	21 名
9	平成 26 年 10 月 29 日（水）	第 2 回事業化セミナー in 浜松「植物工場の現状と事業化への課題」	55 名
10	平成 26 年 10 月 31 日（金）	第 5 回 KRJP セミナー 片麻痺の上肢機能障害とそのリハビリテーション	9 名
11	平成 26 年 10 月 31 日（金）	第 3 回事業化セミナー in 東三河 バイオマスリサイクル事業の北海道との地域間連携	30 名
12	平成 26 年 11 月 5 日(水)	国際標準化セミナー 第 1 回目　国際標準の基礎	63 名
13	平成 26 年 11 月 14 日(金)	国際標準化セミナー 第 2 回目　国際標準の応用	42 名
14	平成 26 年 12 月 4 日（木）	＜後援＞第 4 回バイオマス・リサイクル事業の展望 in 北海道 亜臨界アミノ酸液肥・固形燃料生産システムで強い農業経営へ！	50 名
15	平成 26 年 12 月 7 日（日）	＜後援＞第 5 回 胆振バイオマス・リサイクル事業の展望 in 北海道 亜臨界アミノ酸液肥・固形燃料生産システムで、強い胆振創成へ！	30 名
16	平成 26 年 12 月 8 日（月）	第 6 回 KRJP セミナー 上肢リハビリ機器のアイディアとその応用	12 名
17	平成 26 年 12 月 18 日（木）	医療関係セミナー 医療機器リスクマネジメント入門 -ISO14971-	27 名
18	平成 26 年 12 月 19 日（金）	第 4 回事業化セミナー in 東三河 農業分野におけるセンサ技術応用の現状と展望	22 名
19	平成 26 年 12 月 25 日（木）	医療関係セミナー 医薬品・医療機器等法対策フォローアップセミナー	34 名
20	平成 27 年 1 月 16 日（金）	人の目と等しい分光感度をもつ 2 次元色彩計とその応用 ーインターネプコンー 正確な色情報を 2 次元で測定する方式の色彩計を利用した応用の紹介	51 名

21	平成27年1月16日(金)	＜共催＞イノベーション・マインドを再び浜松に　－新春特別講演会－ ホンダ・イノベーションの真髄を語る	424名
22	平成27年1月21日(水)	＜共催＞SIBAフォーラムin浜松 どう考える・中小企業の海外展開	171名
23	平成27年1月23日(金)	＜共催＞ドイツの医療機器市場とその参入への具体的な方策－浜医大、はままつ医工連携拠点－	23名
24	平成27年1月31日(土)	＜後援＞第6回 空知バイオマス・リサイクル事業の展望in北海道 亜臨界アミノ酸液肥・固形燃料生産システムで強い農業経営へ！	32名
25	平成27年2月2日(月)	＜共催＞地域イノベーションの創出とコーディネーターの役割　－CES－ 中小企業と大学の産学官連携	35名
26	平成27年2月3日(火)	＜共催＞シリコンバレー活用方法セミナー　－JETRO浜松－ シリコンバレーが今注目されている理由：その活用法とは	25名
27	平成27年2月10日(火)	＜後援＞第1回 浜松ICTシンポジウム 未来をもっと身近に、価値あるものに	185名
28	平成27年2月12日(木)	＜共催＞　OSSコンソーシアム東海支部セミナー 経営戦略を手助けするオープンソースソフトウェア　ECM、CEM、ERPの利用と紹介	19名
29	平成27年2月18日(水)	＜共催＞利益を出すための「ものづくり現場」実践講座 海外に打ち勝つためのデンソーのものづくりと改善の秘密	22名
30	平成27年2月19日(木)	医薬品医療機器等法対策フォローアップセミナー「製造販売承認申請等について」	19名
31	平成27年2月22日(日)	＜共催＞International Open Data Day浜松	7名
32	平成27年2月24日(火)	最先端植物工場に関して　－CD研修会－ 豊橋技術科学大学先端農業・バイオリサーチセンター	17名
33	平成27年2月25日(水)	＜共催＞レーザによる異種材料の溶接・接合　－浜松商工会議所－ 難接合材の溶接技術の最新情報	31名
34	平成27年3月7日(土)	＜共催＞Android Project Ara　とものづくりの未来 新しい生産のスタイルと地方の可能性を考える	33名
35	平成27年3月9日(月)	今、浜松でパーソナルモビリティを考える	61名

36	平成27年3月19日(木)	医薬品医療機器等法対策フォローアップセミナー「新法下における QMS 調査対応について」	27名
	合　計		1,733名

エ　展示会への出展等

地域企業の展示会等の出展支援等を10回行った。

番号	開催日	名称	会　　場	備考
1	平成26年5月15日(木)～17日(土)	JP2014情報・印刷産業展	インテックス大阪	浜松地域の企業からの依頼により展示支援を行った。
2	平成26年9月11日(木)、12日(金)	イノベーション・ジャパン2014	東京ビッグサイト	はままつ医工連携拠点及び浜松地域の企業からの依頼により展示支援を行った。
3	平成26年10月30日(木)、11月1日(金)	ものづくり博2014in東三河	豊橋市総合体育館	浜松・東三河ライフフォトニクスイノベーションの取組について展示を行った。
4	平成26年11月6日(木)、7日(金)	ビジネスEXPO2014「北海道技術・ビジネス交流会」	アクセスサッポロ	
5	平成26年11月19日(水)～21日(金)	新価値創造展2014	東京ビックサイト	
6	平成26年11月30日（日）～12月4日（木）	RSNA2014(北米放射線学会)	シカゴマコーミックプレイス	浜松地域の企業からの依頼により展示支援を行った。
7	平成26年12月5日(金)、6日（土）	湖西テクノフェア2014ビジネスマッチング	湖西市アメニティプラザ	浜松・東三河ライフフォトニクスイノベーションの取組について展示を行った。
8	平成27年1月14日（水）～16日（金）	第44回　インターネプコンジャパン2015	東京ビッグサイト	販売促進支援と顧客獲得を目的に事業化ユニットの成果である二次元色彩計応用製品の展示支援を行った。
9	平成27年1月28日（水）～30日（金）	第14回　国際ナノテクノロジー総合展・技術会議	東京ビッグサイト	潜在パートナーへのアプローチ等を目的に、試作品の展示を支援した。
10	平成27年2月26日（木）～27日（金）	第21回　インド国際産業・技術フェア	インドニューデリー	浜松地域の企業からの依頼により、検査用機器の展示支援を行った。

オ　海外情報収集活動

番号	開催日	名称	訪問先	備考
1	平成 26 年 10 月 26 日（日）～平成 26 年 11 月 1 日（土）	米国ミネソタ州医療関係機関調査	ミネソタ大学、メイヨークリニック他	浜松医科大学、静岡大学、地域企業参加者 14 名で視察。各訪問先との意見交換実施。

(2) コーディネーター人材の充実

コーディネーターの質の向上と人材育成の取り組みを充実させるため、特に研究成果の実用化・事業化を統括的にマネジメントできるプロデュース能力を持った人材を育成することを目的に CES（Coordinator Eco-System）活動を推進した。

ア　平成 26 年度　第 1 回実務担当者打合せ開催
開催日：平成 26 年 7 月 16 日（水）
会　場：豊橋サイエンスコア 209 会議室
出席者：関係機関関係者　8 名
内　容：平成 26 年度の活動として①キックオフの開催、②セミナー等の開催、③コーディネーター名簿の更新と公開を決定した。

イ　平成 26 年度　CES 研修会（コーディネーター育成のためのセミナー）
産学連携学会の認定講習会を活用したコーディネーター研修会を開催した。
開催日：平成 27 年 2 月 2 日（月）
会　場：グランドホテル浜松
出席者：CES 登録のコーディネーター60 名と参画 16 機関の担当者を予定
内　容：講座１　中小企業と大学の産学連携の構造について
講座２　事業化事例から見るコーディネーターの役割とポイント
講座３　産学官連携に係る公的支援制度と申請における留意点
グループ討議　産学連携によるイノベーションの推進について

ウ　コーディネーター名簿の更新と公開
浜松地域 46 名、東三河地域 14 名、合計 60 名の名簿データの更新完了。
1 月中旬に最新版の名簿を公開した。

(3) グローバル展開の強化

ア　ドイツ・ベルリン地域との交流
平成 26 年 7 月 23 日にドイツ・フラウンホーファー研究所の研究員が来日し、浜松ビジネスマッチングフェアを視察し、フラウンホーファー研究所による光関連技術セミナーを開催した。9 月には欧州最大の光関連セミナーEOS（European Optical Society）において浜松の地域企業による論文発表の支援を行うとともに、ベルリン地区の関連企業訪問を実施した。

(4) 長期的教育システムの研究

本地域出身者が、将来の地域産業を支え、また、世界を舞台に研究開発分野で活躍できるような卓越した人材を育成する、長期的かつ先進的な教育システムの導入について検討している。

ア　長期的教育システム研究チームの開催

産学官の関係者からなる「長期的教育システム研究チーム（座長：静岡大学副学長・イノベーション社会連携推進機構長　木村雅和氏）」において９回の会議を開催し、具体的な教育システムのあり方や実現方策について検討した。

イ　「MATH やらまいか」の開催

小学生が、算数の競技を通して、よく見る力・よく聞く力・よく考える力（着眼・推理・分析・思考力）を養うことができる大会として、インターネットによる算数ゲーム「MATH やらまいか」を開催した。

【予　選】

期　　間：平成 26 年 10 月 4 日（土）～11 月 9 日（日）
参加方法：インターネットによる Web 参加（参加費無料）
対　　象：浜松市内の小学校に通う小学生

【本　選】

期　　日：平成 26 年 11 月 29 日（土）
会　　場：浜松科学館ホール（浜松市中区北寺島町）
対　　象：予選ランキング上位 30 名の小学生

ウ　シンポジウムの開催

長期的教育システム研究チームの活動を地域の方々に理解していただくため、「教育シンポジウム」を開催した。

開催日：平成 27 年 2 月 28 日（土）
会　場：オークラアクトシティホテル浜松
出席者：浜松市内の小中学生の保護者、浜松市内の小中学校教職員・教育関係者
内　容：①基調講演（講師：宇宙飛行士　山崎直子氏）、②活動報告、
　　③パネルディスカッション
参加者：249 **人**

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 26 年度
①特許等出願数	96	121	162
②査読論文数	2,704	2,716	2,702
③参画企業数	69	116	50
④新規雇用者数	8	5	45
⑤事業化数	23	57	40

【総括】

平成 24 年 6 月に文部科学省から採択された地域イノベーション戦略支援プログラム「浜松・東三河ライフフォトニクスイノベーション・支援プログラム（補助事業）」の３年目が終了した。平成 26 年度は、イノベーションアリーナ活動の充実や地域の各機関・大学に配置されている既存のコーディネーターによる組織（コーディネーターエコシステム）との積極的な連携による体制強化を更に進め、４つの戦略推進計画を立案するとともに、その可視化を図り、関係機関との情報共有を図りながら、企業を巻き込んだ事業検討グループ（ユニット）の形成に向けた取組の強化を図り、事業化の高い案件を候補として 24 件構築した。

輸送機器用次世代技術、新農業、健康・医療、光エネルギーの４戦略分野で合計12 件（前年度比５件増）の事業化ユニットを構築した。事業化ユニットは、その目標、開発ステージ、規模によって国、県、市の研究開発補助金を活用している。平成26 年度は、22 件応募し、11 件採択された。また、平成 26 年度は、事業化を推進するため企業と秘密保持契約を 28 件締結した。

知的クラスター創成事業の成果応用については、競争的資金の獲得を支援しながら、試作品開発や応用製品の開発を進めた。また、国際ナノテクノロジー総合展への出展により、事業化パートナー企業の探索を支援した。

国際連携活動としては、ドイツフランフォーファー研究所、ベルリンパートナーズ、オプト BB 等と双方訪問や技術セミナーを実施する等の活動を行った。また、イエナ市のレンズメーカーからははままつマッチングフェアへの参加表明もいただいた。

セミナーは合計 36 回開催した。そのうち、医薬品・医療機器法等の法改正を中心としたセミナーでは、医療分野への新規参入を計画している地域企業の参加もあり、新たな事業化ユニットとしてもポテンシャルを発掘することができた。

上記の活動については、産学官金の 16 機関の実務者で構成されるアリーナ運営会議で四半期毎に報告した。

今後も本支援プログラムの大きな柱である“本地域の特性を活かした持続可能な発展”ができる仕組みづくりを念頭において、今後の活動を推進していくとともに事業の可視化に努力していく。

１４　国等の研究開発事業化支援事業

決算額 134,229,929 円（予算額 138,229,929 千円）＜国補助＞
決算額　　465,130 円（予算額　　500 千円）＜自主財源＞

（1）「戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン事業）」の管理法人事業

【目的】

浜松地域の中小企業及び大学・試験研究機関が共同で行う「戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン事業）」の事業管理機関として、研究開発の運営・管理を行い、開発を計画通り推進する。

【実施内容】

経済産業省等が行う研究開発補助（委託）事業の事業管理機関として、「中小企業のものづくり高度化法」の認定を受けた、中小企業の基盤技術の高度化を目的とする産学官による研究開発事業の進捗管理を行い、各種情報の収集や他の研究機関等への橋渡しを通じて研究成果の事業化を推進する。

本年度は、継続の 2 テーマと新たに採択を受けた 3 テーマに対して、事業管理機関としての役割を果たした。

≪サポイン事業の概要≫

①3D プリント成形加工技術にもとづく医療用モデルの試作開発と販路開拓（2 年目）
　研究機関：㈱アールテック、東北大学、千葉大学
　実施期間：平成 25 年度～27 年度

②柔らかいフィラーを使った低コスト・高性能な熱伝導シートの開発（2 年目）
　研究機関：㈱大豊化成、大阪市立工業研究所、エス・ジー・ケイ㈲
　実施期間：平成 25 年度～27 年度

③異種積層材向け PCD（多結晶ダイヤモンド）微細複合工具成形技術の開発（1 年目）
　研究機関：㈱内山刃物、光産業創成大学院大学、東京電機大学、浜松工業技術

支援センター
実施期間：平成 26 年度～27 年度
④次世代自動車用、超薄肉ステンレス製「箱型 電池ケース」の開発と事業化（1 年目）
研究機関：国本工業㈱、静岡大学
実施期間：平成 26 年度～28 年度
⑤同時 5 軸制御 Additive Manufacturing（加法的製造）による Light Weight Structure（軽量構造）の実現（1 年目）
研究機関：榎本工業㈱、㈱C&G システムズ、静岡文化芸術大学
実施期間：平成 26 年度～27 年度

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 26 年度
交付決定額に対する交付確定額の割合	98.7%	97.0%	99.0%

【総括】

2 プロジェクトにおける事業計画変更に伴う事業費の減額により目標に達しなかった。サポイン事業は、「委託」から「補助」に変わったものの、地域企業の研究開発や事業化の促進のための最も有効な支援制度の一つであることに変わりはない。今後は、ポテンシャルを持っているものの研究開発や事業化に一歩を踏み出せない企業を発掘し、サポインへの申請、採択に向けて重点的に支援する。

(2) 競争的資金チャレンジセミナー

【目的】

戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン）等の国の競争的資金を浜松地域の中小企業が積極的に活用できるよう、国の支援情報の収集、情報提供、提案の相談、提案書の作成支援等を行い、地域中小企業の研究開発やイノベーションを後押しする。

【実施内容】

戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン事業）チャレンジセミナー及び個別相談会を開催した。

①第 1 回チャレンジセミナー
開催日：平成 26 年 5 月 14 日（水）13:30～15:30
参加者：セミナー　27 名、個別相談会　2 社
講　師：関東経済産業局　製造産業課　北野まり 氏
内　容：1）平成 26 年度サポイン事業制度説明
サポイン事業が「委託」から「補助」に変更となり、留意すべきことは下記の通り。
・消費税 8%は補助対象外
・管理機関が民間ならば、研究機関の大学も 2/3 補助となる
・販路開拓の活動、費用は、法認定書類にも記載する
・一般管理費の代わりの 30%間接費を有効に活用する

②第 2 回チャレンジセミナー
開催日：平成 27 年 2 月 23 日(月)
参加者：セミナー　22 名、個別相談会　9 社
講　師：関東経済産業局　製造産業課　北野まり 氏
内　容：1）平成 27 年度サポイン事業制度説明
・平成 27 年度から、特定基盤技術分野に「デザイン技術」が追加

される。
・サポインとは呼ばれないが、新たに「プロジェクト委託型」、「シーズ発掘調査」、「シーズ活用研究開発」の補助制度ができた。

2）個別相談会

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 26 年度
①セミナー参加者	46 名	49 名	50 名
②個別相談会参加企業数	8 社	11 社	8 社

【総括】

当取組はサポイン制度の周知、啓発する機会として有効であり、今後も活動を継続する。セミナーや個別相談会にこれまで財団と関わりが少ない企業が多数参加し、競争的資金等を獲得する機会と意欲の拡大に効果があった。

１５　浜松地域資源活用研究会

決算額 3,211,896 円（予算額 3,212 千円）＜国補助＞
決算額 1,071,838 円（予算額 700 千円）＜自主財源＞

【目的】

浜松地域に存在する未利用資源（放置竹林、森林、藻類、他）の有効活用を図るとともに、浜松地域のものづくり技術を資源活用に応用し、事業化につなげる。まずは放置竹林対策として伐採された竹の有効活用と、畜産や農耕での利用による農産品の品質向上を重点的に促進する。

【実施内容】

浜松地域のものづくりの技術を活用して、浜松地域に存在する未利用資源（放置竹林、森林、藻類他）の有効活用に向けた調査、研究を行った。分科会活動によって、行政、研究機関、企業、団体の連携を促進する活動を行った。

①研究会

第 4 回研究会　－講演会

開催日：平成 26 年 4 月 17 日（木）
場　所：浜松商工会議所 10 階 C 会議室
参加者：41 名
内　容：バイオマス資源活用に向けた広域・農商工観・産学官民連携
豊橋技術科学大学　教授　大門 裕之 氏
京都･宮津　竹資源有効活用プロジェクト
宮津市自立循環型経済社会推進室　副室長　山根 洋行 氏
生竹微粉末が拓く循環型地域の未来像～竹パウダーの食用活用と効能～
中部大学　教授　横越 英彦 氏

第 5 回研究会　－富士竹類植物園見学

開催日：平成 26 年 7 月 9 日（水）
場　所：富士竹類植物園
参加者：18 名

②理事会（4 回）

開催日：平成 26 年 4 月 7 日（月）、5 月 7 日（水）、10 月 28 日（火）、2 月 19 日（木）

内　容：今年度の活動計画打合せ、国交省補助金申請打合せ、協議会の活動状況など

③農畜産分科会（8回）　－新規発足

開催日：平成26年4月30日（水）、6月2日（月）、7月16日（水）、8月11日（月）、8月25日（月）、9月9日（火）、10月1日（水）、10月22日（水）

内　容：竹の農畜産に与える効果、竹粉の野菜生育に対する効果、マーケティング専門家支援

④工業化分科会（14回）

開催日：平成26年4月22日（火）、5月28日（水）、7月4日（金）、9月9日（火）、9月16日（火）、9月30日（火）、10月3日（金）、10月8日（水）、10月17日（金）、10月23日（水）、11月7日（金）、11月13日（木）、12月19日（金）、2月13日（金）

内　容：バイオトイレ、ランプ発熱対策、竹の放射線吸収能力、マーケティング専門家指導、デザイン専門家指導

⑤エネルギー分科会（10回）　－　新規発足

開催日：平成26年5月21日（水）、6月19日（木）、7月18日（金）、8月20日（水）、9月25日（木）、10月23日（木）、11月25日（火）、12月17日（水）、1月22日（木）、2月16日（月）

内　容：分科会設立趣旨、バイオマス都市構想、竹･下水汚泥・アオサ等のエネルギー利用

⑥国土交通省地域づくり活動支援補助金に申請し、活動資金を獲得した。

交付決定日：平成26年7月4日（金）

交付確定額：3,125,848円（平成27年3月20日）

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成25年度	平成26年度	平成26年度
①事業化のスタートあるいは補助金獲得	0件	1件	1件以上
②分科会の発足	1件	2件	1件以上

【総括】

平成26年度は国土交通省の補助金により、静岡県西部地域づくり活動支援協議会を発足し、会員企業40社の支援を活発に行った。具体的には、竹材のサプライチェーン構築として、西部農林事務所と連携して、森の力再生事業で伐採される竹を会員企業が利用できるシステムを構築した。農畜産品のブランド化では、竹を利用して高品位化した牛肉や野菜を使って、ホテルコンコルド浜松で試食会を催し、170名の参加者を得た。参加者には大好評で、竹に対する認識向上に大いに貢献した。新製品・新商品の開発では、伊藤製作所が進めている竹の積層板を使ったフロアランプや椅子のデザイン向上や販路開拓を実施した。これまでは下請けの加工を業務としていた会社が、自社製品の開発から販売までを手がけることになり、これからの発展が期待されている。

資源活用研究会では協議会活動を通じて、担い手が自力で活動できるための基礎を築き、継続的な運営体制が整備されるなど、大きな成果を上げたと考えている。今後の研究会活動については、民間主導による別の組織形態へと発展し、自立した運営で取り組みを進めることとなった。

１６　はままつ次世代光・健康医療産業創出事業支援

決算額 500,540 円（予算額 500 千円）＜自主財源＞

【目的】

各地域の産学官連携推進機関との広域的な連携を図るとともに、地域企業における国等の各種研究開発事業による成果の発信や国内外の市場に向けた事業展開を支援する。

【実施内容】

「はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点（はままつ医工連携拠点）」の活動計画を実現するため、具体的には拠点長及び事業総括として 2 名を浜松医科大学内に事務局を置く「拠点」に派遣し、はままつ医工連携拠点の下記の活動を（提案機関の一つとして）支援した。

≪支援内容≫

(1) 拠点会議体の運営

①事業運営委員会〔2 回〕、②ワーキング会議（実務者会議）〔7 回〕、③事務局ミーティング〔1～2 回／月〕の開催

(2) 事業化支援活動としての主催・共催イベント等への開催協力

健康・医療産業参入セミナーやメディカルイノベーションフォーラム 2015 の運営

(3) 事業化に向けた医療・介護現場のニーズとのコーディネート活動

医療・介護現場との情報交換会〔1 回〕、医療・介護現場の見学会〔3 回〕

(4) 拠点活動についての外部者による評価会の開催

産学官の有識者 3 名の外部評価者により評価を得た

(5) 医療機器に関する情報取集のための関連団体との連携

静岡県製薬協会、日本医療機器工業会、人間・ロボット共生リサーチセンター研究会などのセミナー及び会合への参加。会員企業からの要望対応など

(6) 他拠点との交流

千葉大学フロンティア医工学センターとの相互訪問による交流会の開催、ファルマバレーセンターとの合同出展など

(7) 海外調査

浜松地域の大学（浜松医科大学・静岡大学）関係者や地元の企業経営者等と共に米国の医療機器の研究施設や大手企業が集積しているミネアポリスを訪問。

訪問先：ミネソタ大学・医療機器コンサル会社、大手病院関連施設（メディカルベンチャー）

また、医療機器の要素部材の国際展示会（MD&M ミネアポリス）にて情報収集を行った。

(8) 事業化支援のためのブース出展、イベント参加

MEDTEC Japan2014、医工連携出会いの広場、第 8 回ビジネスマッチングはままつ、日本蘇生学会併設展示、第 4 回おおた研究・開発フェア、ふじのくに新産業創出フェア、日本医療機器学会大会・機器展示会「メディカルショージャパン 2014」など

(9) 静岡県委託事業（新成長産業戦略的育成事業）の実施とフォローアップ

①医工連携スタートアップ支援事業〔採択件数：8 件〕

②医工連携出会いのサロン（学会併設展示）〔出展企業：6 社、出展企業間交流実施〕

③平成 24・25 年度採択企業のフォローアップ、公的資金へつなげる支援

（10）医療相談への対応〔8 件〕

特に医療機器及び薬事法に関しての地元企業及び医療施設からの相談に対応。必要に応じて、浜松医科大学の医療従事者との面談をセットアップ

（11）協同組合（HAMING）の事業化検討支援

事業化検討会議の開催〔1 回〕

（12）産学官医工連携ネットワークへの参画

「全国イノベーションコーディネーターフォーラム」
「静岡健康・長寿学術フォーラム」
「地域医工連携実務者会議」（経済産業省関東経済産業局）
「医療機器開発支援ネットワーク」（経済産業省）
「地域ロボット産業創出サミット」（経済産業省）
「コーディネーター・エキスパートシステム構築」（大学等シーズ・ニーズ創出強化支援事業）　など

（13）その他、セミナーや講演会等への参加を通じた普及活動や人材育成

【総括】

計画されていた事業化支援の取り組みは概ね実施できている。はままつ医工連携拠点による実用化については、平成 25 年度に引き続き 3 件の実績を挙げており、取り組みの成果が実を結びつつあるとともに、今後の活動の弾みになる。

なお、はままつ医工連携拠点自体の具体的な活動成果及び次年度の計画等については、本事業の主母体である拠点の事業運営委員会にて報告されるものである。

１７　次世代技術調査事業

決算額 885,369 円（予算額 800 千円）＜自主財源＞

【目的】

次世代技術として注目を集める各種の技術動向等について調査し、勉強会やセミナーの開催を通じて地域企業に発信し、情報共有の機会と場を提供する。

【実施内容】

①「オープンテクノロジーカフェ」

「オープンテクノロジーカフェ」を企画・運営し、地域企業や市民へオープンテクノロジー（オープンソースソフト、オープンソースハード、オープンデータ等）に関する情報提供や意見交換により、地域企業や市民への啓発とニーズ収集を行う。

・第 1 回

開催日：平成 26 年 7 月 16 日（水）18:30～20:30
テーマ：オープンソースソフトとオープンデータについて
講　師：㈱パドラック　代表取締役　杉本 等 氏
参加者：14 名

・第 2 回

開催日：平成 26 年 9 月 18 日（木）18:30～20:30
テーマ：「自由な地図の使い方」～オープンストリートマップを利用しよう～
講　師：オープンストリートマップ・ファウンデーション・ジャパン　齋藤 匡信 氏
参加者：15 名

・第 3 回

開催日：平成 26 年 11 月 13 日（木）18:30～20:30
テーマ：オープンソースソフトの使い方～オープンソースソフトって何？～
講　師：㈱パドラック　代表取締役　杉本 等 氏

参加者：6 名

・第 4 回

開催日：平成 27 年 1 月 14 日（水）18:30～20:30

テーマ：オープンハードウエアの使い方～オープンハードウエアって何？～

講　師：㈱アックス　代表取締役社長兼会長　竹岡 尚三 氏

参加者：11 名

今回は、情報発信及び意見交換、参加登録などに FaceBook を活用し、一部の参加者からは従来の方法に比べ参加しやすいとの声があった。

②展示会へのバス視察会

地域企業からの要望に応えて「機械要素技術展」へのバス視察会を実施し、３D プリンターなど最新技術動向を把握する機会を提供する。

・「機械要素技術展」へのバス視察会

開催日：平成 26 年 6 月 26 日（木）

参加者：40 名

・「ギフトショー」へのバス視察会

開催日：平成 27 年 2 月 4 日（水）

参加者：30 名

③地域産業からの要望による共催事業

地域の企業や技術者コミュニティーからの要望に応えて各種勉強会やセミナーを共催し、スキルアップや最新技術動向把握の機会提供を行った。

・OSS コンソーシアム東海支部と共催セミナー

開催日：平成 27 年 2 月 12 日（木）

テーマ：経営戦略を手助けするオープンソースソフトウェア

～ECM、CRM、ERP の利用と紹介～

※その中で、オープンソースソフトではないが、製造業が企画開発を行った生産管理システムについて発表を行い、好評であった。

テーマ：『伍葉管兵衛』～中小企業向け生産管理システム

講　師：㈱伍葉精機 常務取締役　杉山 力 氏

参加者：20 名

・オープンストリートマップ東海と共催セミナー

開催日：平成 27 年 2 月 22 日（日）

テーマ：浜松駅北マッピングパーティ

～ホイールマップに挑戦しよう！ IODD 協賛～

講　師：オープンストリートマップ・ファウンデーション・ジャパン

齋藤 匡信 氏

参加者：7 名

・日本 Android の会浜松支部と共催セミナー

開催日：平成 27 年 3 月 7 日（土）

テーマ：スマホが変わる！スマホのつくり方が変わる！

～Project Ara と新しいモノづくりのエコシステム～

講演 1：Android Project Ara とものづくりの未来

～３D プリンターで作るスマフォ～

講　師：日本 Android の会 名誉会長、早稲田大学客員教授　丸山 不二夫 氏

講演 2：「Project Ara の概要」

講　師：㈱Gclue 代表取締役社長　佐々木 陽 氏

参加者：37 名

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成25年度	平成26年度	平成26年度
①技術調査件数	― 件	4件	2件

【総括】

次世代技術としてオープンテクノロジーに関するミニセミナーを4回、新製品開発におけるアイデア発掘のための視察会を2回、地域産業からの要請による共催事業を3 回開催し、地域企業に次世代製品について考える機会を設けた。また、出口戦略を考えた新製品開発の啓発に向けて、展示会へのバスツアー及びフォローアップミーティングを開催し好評を得た。さらに、地域企業からの要望があった中から調整がついた3件の共催セミナーを実施するなど、地元企業のアピール、実践に当たっての技術交換、最先端の技術動向の紹介など、それぞれの要望に沿った内容で開催することができた。

地域企業に対し、技術的に新しい分野への啓発活動を実施ができたことは評価できる。新しい試みとして実施した新技術に関するカフェ（平日夜間開催）は参加者に好評であったが、参加者数のばらつきなどの課題も残した。

平成 27 年度も次世代技術として注目を集める各種の技術動向等について、勉強会やセミナーの開催を通じて地域産業界に情報共有の機会と場を提供していく。

１８　地域産業活性化補助金交付事業

決算額 5,102,405 円（予算額 5,100 千円）＜自主財源＞

【目的】

技術革新の進展に即応した技術を製品の開発又は生産等に利用し事業化を図る中小企業者に対して、その必要経費の一部を補助し、地域産業の活性化に寄与する。

【実施内容】

・補助金事業の説明会、相談会開催
　平成26年6月17日（火）午後　浜松商工会議所会館Ｂ・Ｃ会議室
　参加者数：68名
・公募期間　平成26年6月2日（月）～7月18日（金）
・申請件数　5件
・審査会
　平成26年8月6日（水）午後　（公財）浜松地域イノベーション推進機構
・採択企業　4件
・平成24、25年度採択企業　成果報告会
　平成26年11月11日（火）

＜補助金交付確定額　5,036,400 円＞

（単位：千円）

採択企業名	研究開発事業	確定額
㈲勝美	「うなぎコラーゲン・セラミドパウダーの消臭・血中から肌への効果試験研究及び残渣である脂質の有効成分抽出技術開発」 ［内容］うなぎコラーゲン・セラミドパウダー特有の臭いを除去するための脱臭加工試験。血中から肌への効果試験研究及び残渣である脂質の有効成分の抽出技術試験研究。 ［成果と今後］緑茶カテキンに含まれる茶ポリフェノールの濃度が高いほど脱臭効果が高いことが判明。実機で行うパウダー製造過程において脱臭効果が得られ製品化されれば、健康食品業界及び化粧品業界への販路拡大の可能性あり。「機能性関与成分」の科学的根拠が実証でき、特許性があることが判明。今後は特許を出願し、パウダーの製品化を目指していく。	1,200
㈱ホト・アグリ	「害虫防除機能付き照明の防水機能とコスト低減を目的とした製品開発」 ［内容］害虫防除機能付き LED 照明「虫ナイト」に防水機能を持たせるための形状変更、使用材料の見直し、基板設計。量産時のコスト低減を視野にいれた製品開発。 ［成果と今後］コスト面、機能面の問題を、部品減少や筐体部品の選定などにより、量産計画、LED 実装時の専用治具であるコレットを使用するなどして、コスト低減ができた。今後は、形状が異なる照明の商品開発や高デザイン化、ラインナップを増やしていく。	1,200
㈱松田屋	「遠州食材を活用した健康志向加工みその商品開発」 ［内容］脱酸素剤技術と低温殺菌技術を組み合わせ、遠州地区の食材を活用し健康志向ニーズにも応えた調味加工味噌の商品開発。 ［成果と今後］充填機と蓋締機によって商品の初発菌数を制御することで、リスク軽減を図ると同時に保存性を高める技術を獲得。また、温度設定可能な殺菌庫を使い、食感、味わいや外観と殺菌能力の相関関係を把握した。今後は、脱酸素剤に頼らない衛生管理技術による初発菌数の減少と、低温加熱技術の向上により、調味加工味噌の商品開発を進める。	1,200

㈱ブルックマンテクノロジ	「超高感度 CMOS イメージセンサの販路開拓」 ［内容］超高感度 CMOS イメージセンサの本格量産化に向けた改良試作と海外を中心とした販路開拓。 ［成果と今後］新たな海外顧客獲得のためドイツで開催された「EOSAM2014」に参加し、製品紹介及び技術プレゼンテーションを実施。監視向け以外の新たなアプリケーション開拓のため分析計測器を導入し、センサの正確な分光度測定、白キズ低減（歩留まり向上）に向けた改良試作の性能評価を実施。今後は製造工程委託先への品質管理の徹底と超高感度 CMOS イメージセンサの後継機種（フルハイビジョン化）の製品開発に取り組んでいく。	1,436
計		5,036

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 26 年度
①申請件数	7 件	5 件	10 件
②提案採択件数	4 件	4 件	4 件

【総括】

採択企業は、本補助金を活用して技術開発や研究開発を進展させ、事業化のめどを付けることができた。また、平成 24、25 年度採択企業の成果報告会を開催し、現在の事業進捗や今後の課題等を把握した。今後も必要に応じて専門家派遣制度等を活用して販路開拓を含めた事業化のフォローを行っていく。

今回成果指標で申請件数 10 件を目標にしたが、実績は 5 件にとどまった。件数が減少したのは、国・県・市で技術や研究開発系の補助金が多数実施されていたことが原因だと考察する。

平成 27 年度は、他機関による補助金が更に拡充されたことや、当補助金の財源確保が困難なこともあり、補助事業を終了し、過去採択企業へのフォローアップを中心に事業を進めていく。

7【拓く】販路開拓支援

１９　ものづくり販路開拓支援事業

決算額 7,947,896 円（予算額 8,194 千円）＜浜松市＞

【目的】

市内中小企業（製造業）に対し、国内外（県内を除く）で開催される各種展示会への出展を促すとともに、首都圏を中心として市場・販路開拓に向けた支援を行う。

【実施内容】

中小企業の自社製品・技術の販路開拓を目的として、国内及び海外で開催される各種展示商談会へ出展する企業に対し、資金助成や助言等の支援を行った。

助成額は国内で開催される展示商談会に対しては 1 社当たり上限 10 万円、海外は上限30万円を助成し、3社以上での共同隣接出展については上限額を5割増しとした。

また、コーディネーターによるハンズオンサポートを通じて、企業出展のビフォー・アフターのフォローを行った。

また、近年増加している海外販路開拓の相談に関し、企業が抱える課題や求めに応じた専門家の紹介や関連支援機関が設ける支援メニューの情報提供などを通じてサポートの強化を図った。

(1) 1 次募集（募集期間：平成 26 年 5 月 7 日（水）～5 月 29 日（木））

①国内　応募企業数　25 社
交付決定額　2,028 千円（採択企業数：23 社）※うち 2 社辞退
交付確定額　1,922 千円（補助金交付企業数：21 社）
＜出展展示商談会の名称＞
・画像センシング展 2014（横浜）
・機械要素技術展 2014（東京）
・インターオプト 2014（横浜）　他

②海外　応募企業数　3 社
交付決定額　707 千円（採択企業数：3 社）
交付確定額　427 千円（補助金交付企業数：2 社）※1 社辞退
＜出展展示商談会の名称＞
・INTERFORST 2015（ドイツ）
・Thailand LAB 2014（タイ）　他

(2) 2 次募集（募集期間：平成 26 年 7 月 22 日（火）～8 月 22 日（金））

①国内　応募企業数　7 社
交付決定額　653 千円（採択企業数：7 社）
交付確定額　617 千円（補助金交付企業数：7 社）
＜出展展示商談会の名称＞
・インターネプコンジャパン 2015（東京）
・新価値創造展 2014（東京）
・国際画像機器展 2014（横浜）　他

②海外　応募企業数　1 社
交付決定額　300 千円（採択企業数：1 社）
交付確定額　300 千円（補助金交付企業数：1 社）
＜出展展示商談会の名称＞
・北米放射線学会 2014

【成果指標】　※項目②～④は１社あたりの平均値

地域	項目	実績		目標
		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 26 年度
国内	①出展社数	31 社	28 社	35 社
	②ブース来場者数	155 名	321 名	170 名
	③名刺交換数	64 名	63 名	70 名
	④商談件数	9 件	7 件	10 件
	⑤商談成立件数	7 件	25 件	10 件
海外	①出展社数	4 社	3 社	13 社
	②ブース来場者数	267 名	453 名	293 名
	③名刺交換数	104 名	56 名	114 名
	④商談件数	9 件	6 件	10 件
	⑤商談成立件数	0 件	4 件	3 件

【総括】

展示会補助金については、平成 25 年度と比べ出展社数は減少したものの、商談成立件数は平成 25 年度 7 件から 29 件と大幅に伸びた。要因はいろいろと考えられるが、平成 26 年度から補助金を活用して展示会に連続出展ができる制度に変更し、連続して自社をＰＲする場を設けることが成果に繋がったと推察する。年間を通して中小企業からの声としては、①「首都圏へ出ていく資金体力がない」、②「対象分野の縛りがあるので補助金を十分に活用できない」、③「首都圏等の展示会では自社が埋もれてしまう」等、意見をいただいた。それらを考慮し、平成 27 年度については、新たな制度設計で事業を展開していく。①補助率や補助額の変更、②対象分野・展示会枠の拡充、③展示会で自社をＰＲするための勉強会等の実施。また、補助金以外でフォローする企画の立案や体制づくり等も併せて新たに検討していく。

２０　【新規】浜松地域販路開拓・マッチング支援事業

決算額 1,579,608 円（予算額 2,000 千円）＜自主財源＞

【目的】

浜松市や浜松商工会議所と連携し、輸送用機器や医療機器の大手メーカー等をターゲットにした個別商談会を開催し、地域企業の販路開拓やマッチングを支援する。

【実施内容】

平成 26 年 8 月 5 日（火）に㈱本田技術研究所（栃木県）にて三遠南信地域の中小企業の新技術･新工法を提案する展示商談会を実施した。

浜松商工会議所が㈱本田技術研究所との調整役を担い、当財団は会場設営や出展者ガイドブックの印刷などを担当した。

出展後の出展者アンケートの結果、回答 39 社中 18 社が何らかの成果が得られたと答えており、うち 1 社が 5 件の取引成立、7 社が計 9 件の見積依頼を受けている。

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 26 年度
①出展社数	―	48 社	50 社
②商談件数（取引成立）	―	5 件	5 件

【総括】

商工会議所と連携し、輸送用機器の大手メーカーである㈱本田技術研究所にて「新技術・新工法を提案する展示商談会」を実施した。大手メーカーとの直接商談の場・機会の設定は2次3次サプライヤーの来場を引き出すことにもつながり、一般の展示会出展に比べて、取引成立や見積依頼、コネクションを着実に獲得するなど一定の成果を得ることができた。

今後は、商談先の選定や開催時期の検討も含め、商工会議所との連携を更に強化した中で、より効果的な展示商談会が開催できるよう準備・調整を行う。

２１　地場産業振興事業

決算額 7,643,884 円（予算額 8,374 千円）＜自主財源＞

【目的】

地元繊維業界が行う見本市への協力や、新商品・新技術開発、新たな販路の開拓等の取り組みについて支援し、当産地繊維製品の普及・拡大とイメージアップを図り活力強化と需要拡大を促進する。また、二輪車製造業の振興及びオートバイ文化の発信を目的とした「バイクのふるさと浜松」の事務局運営を行う。

【実施内容】

（1）繊維製品の普及拡大

本地域の代表的な地場産業である綿織物の振興に向けて、静岡県、浜松市等との共催により、以下の事業についての開催支援を行った。

ア　ハママツ・コレクション事業

①プレミアムテキスタイルジャパン（東京国際フォーラム）

開催日　平成26年5月21日（水）～22日（木）2015 Spring/Summer　4企業
平成26年11月5日（水）～6日（木）2015 Autumn/Winter　2企業
（ジャパンクリエーション2015併催）1企業

内　容　1,330名のブース来場者と2,975件のサンプル依頼があり、浜松テキスタイルを国内外の繊維関係者にPRするなど成果を上げた。

②ギフトショー（東京ビッグサイト）

開催日　平成26年9月3日（水）～5日（金）　1組合
平成27年2月4日（水）～6日（金）　1組合

内　容　132名のブース来場者と74件のサンプル依頼があり、浜松テキスタイルを国内外の繊維関係者にPRするなど成果を上げた。

③遠州織物コレクション事業(文化ファッションインキュベーション)

開催日　平成27年2月19日（木）～20日（金）　2組合12企業

内　容　遠州産地2組合12企業が、開発した新企画商品を展示し、産地イメージの向上、新規市場への開拓及び販路の拡大を図った。延べ146名の来場者と155件のサンプル依頼があり一定の成果を上げることができた。

イ　ゆかた振興事業

「注染・ゆかた・和装展」の開催

開催日　平成26年7月5日（土）～6日（日）

会　場　ギャラリーモールソラモ

内　容　注染・ゆかた・和装製品の展示・発表、浜松注染そめの実演・体験、浜松工業技術支援センター成果発表を実施し多くの来場者でにぎわ

い、広く市民にゆかたの魅力を感じてもらうことができた。また、7月25日（金）には、浜松学芸高校にて高校生ゆかた教室（39名参加）を実施し、ゆかたへの関心と理解を深めた。

ウ　新製品展示紹介事業

①福岡ギフトショー（マリンメッセ福岡）

開催日　平成26年6月9日（月）～11日（水）　1組合（3企業）

内　容　高付加価値製品や機能加工製品の展示・商談を行い、新規需要の拡大を図った。

②綿の産地フェア

開催日　平成26年10月25日（土）

会　場　浜松市総合産業展示館　2組合14企業

来場者　1,500名

内　容　地産地消のモデル事業として、地域住民を対象とした、遠州産地の新製品の展示・アンケート調査を行った。

また、体験コーナーにて、福田地区の特産である別珍・コールテンの剪毛や手織り機、製紐機を体験できる場を設けることで、多くの来場者に対して遠州織物への関心と理解を深めた。

エ　マーケティング支援事業

①　コダワリノヌノ展（南青山ふくい291）

開催日　平成26年9月18日（木）～19日（金）

②ＴＮ展（東京青山テピア）

開催日　平成26年11月13日（木）～14日（金）

オ　浜松シティファッションコンペ事業

1次審査　平成26年9月18日（木）

最終審査　平成26年12月8日（日）

最終審査　平成26年12月21日（日）

会　場　えんてつホール

内　容　浜松地域の綿関連素材を用いた作品づくりを通じて、次代を担うクリエイターと繊維業界との有機的な関係を構築するとともに、綿織物産地「浜松」の情報を広く発信し繊維産業の振興を図った。

全国からデザイン画4,472点の応募が寄せられ、そのうちデザイナー等による第一次審査を通過したデザイン画30点を衣装化し、プロのモデルによるファッションショー形式で審査を行った。素材については、産地企業25社の協力があり綿素材の産地浜松をアピールした。

カ　浜松市総合産業展示館北館展示コーナーへの繊維製品の展示

(2)「バイクのふるさと浜松2014」実行委員会事務局運営事業

オートバイの魅力や文化の発信等を目的とする「バイクのふるさと浜松」の事務局運営を担い、開催に向けた関係機関との調整や実行委員会を毎月開催した。

①「バイクのふるさと浜松2014」

開催日　平成26年8月23日（土）～24日（日）

会　場　浜松市総合産業展示館

来場者　21,000人

内　容　バイクフォーラム、最新モデルの展示、ものづくり企業展、バイク販売店コーナー、ものづくり学校コーナー、トライアルデモンスト

レーション等を実施した。

②「バイクのふるさと浜松 in 静岡文化芸術大学」

開催日　平成 26 年 11 月 1 日（土）～2 日（日）

会　場　静岡文化芸術大学

来場者　909 人

内　容　静岡文化芸術大学の大学祭（碧風祭）にて、若者ら新たな利用者にバイクの魅力の発信と交通安全の啓発を行った。3 メーカーによる車両展示 9 台及び二輪ライディングシミュレータ体験を実施した。

③「大阪モーターサイクルショー2015 への出展」

開催日　平成 27 年 3 月 20 日（金）～22 日（土）

会　場　インテックス大阪 1 号館、2 号館

来場者　57,754 人

内　容　往年の名車(ライラック)及びバイク部品メーカー製造の新素材車イスを展示するとともに、バイクのふるさと浜松 2015 のチラシを配布し、バイクのふるさと浜松の PR を行った。来場者は前年を上回り盛況であった。

【成果指標】

項目	実績		目標
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 26 年度
①ﾊﾏﾏﾂ・ｺﾚｸｼｮﾝ事業ｻﾝﾌﾟﾙ依頼件数※	1,756 件	3,204 件	1,350 件
②ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ支援事業ｻﾝﾌﾟﾙ依頼件数	85 件	343 件	90 件
③バイクのふるさと来場者数	22,500 名	21,000 名	23,700 名

※プレミアムテキスタイルジャパンとギフトショー、遠州織物コレクションの数値合計

【総括】

繊維産業に関しては、プレミアムテキスタイルジャパンとギフトショーの両展示商談会において、商談成約につながる十分な手応えを得ており、首都圏開催かつターゲット（来場者・出展者）を明確に絞った取り組みが功を奏している。

また、平成 26 年度のバイクのふるさとは開催週を「バイクウィーク」と称し、国や民間団体主催の様々なバイク関連イベントと連携して開催したため、相乗効果による連続的な啓発とボリューム感のある盛り上がりにつながった。

なお、来場者数が前回より減少した理由については、天候不良と関連イベントの併催による集客の分散と考えられる。

参考資料

財 団 の 運 営

1　基本財産及び基金

（単位　千円）

基本財産・基金 ＼ 出捐者	基本財産	債務保証基金	高度技術振興基金	地域産業活性化基金	合計
静岡県 （うち国庫支出額）	60,000	113,000	180,000 (147,790)	660,000 (330,000)	1,013,000 (477,790)
浜松市	430,000	113,000			543,000
（旧浜松市）	(430,000)	(63,070)			(493,070)
（旧浜北市）		(20,440)			(20,440)
（旧天竜市）		(11,080)			(11,080)
（旧細江町）		(9,430)			(9,430)
（旧引佐町）		(8,980)			(8,980)
民間企業 （社数）	115,700 (33)	134,000 (31)			249,700
合計	605,700	360,000	180,000	660,000	1,805,700

平成27年3月31日現在

２　役員及び委員

(1) 理事・監事（定款第 22 条）

平成 27 年 3 月 31 日

（氏名 50 音順）

	氏　名	所　属	役　職
理 事 長	津田　紘	スズキ ㈱	相談役
理　事	大坪　豊生	ヤマハ発動機 ㈱	顧問
〃	岡部比呂男	ヤマハ ㈱	顧問
〃	木村　雅和	静岡大学	イノベーション社会連携推進機構 副学長・機構長
〃	佐野　良夫	㈱ 河合楽器製作所	取締役 副社長執行役員
〃	鈴木　和博	浜松信用金庫	専務理事
〃	鈴木敬太郎	中部ガス ㈱	常務取締役企画・管理部門担当 経営管理部長　浜松支社長
〃	原　　勉	浜松ホトニクス ㈱	常務取締役中央研究所長
〃	古橋　敏明	㈳ 静岡県繊維協会	副会長
〃	山本　清二	浜松医科大学	メディカルフォトニクス研究センター 教授・学長特別補佐
専務理事	増田　洋介	(公財)浜松地域イノベーション推進機構	事業推進部長
理　事	三井　啓義	(公財)浜松地域イノベーション推進機構	事務局長・総務企画部長
監　事	山内　致雄	㈱ 電興社	代表取締役社長
〃	中野　　純	中野純公認会計士・税理士事務所	所長

(2)評議員（定款第 12 条）　　平成 27 年 3 月 31 日

（氏名 50 音順）

	氏　名	所　属	役　職
評 議 員	荒木　信幸	静岡理工科大学	学事顧問・名誉学長
〃	安形　秀幸	浜松市	産業部長
〃	池田　祥巳	中部電力 ㈱	静岡支店 浜松営業所長
〃	石川　晃三	㈱ソミック石川	代表取締役会長
〃	井上　光輝	豊橋技術科学大学	理事・副学長
〃	加藤　義章	光産業創成大学院大学	学長
〃	杉本　浩利	㈱ 静岡銀行	常務執行役員西部カンパニー長
〃	服部　貴應	㈱ エヌエスティー	代表取締役社長
〃	松本　好司	天方産業 ㈱	代表取締役社長
〃	守田　泰男	遠州信用金庫	理事長
〃	渡辺　吉章	静岡県	経済産業部商工業局長

３　会　議

(1)理 事 会

①平成 26 年度 第 1 回理事会

開催日時　　平成 26 年 6 月 10 日（火）13：30～
開催場所　　浜松地域イノベーション推進機構　8 階セミナー室
出 席 者　　10 名

審議事項

第 1 号議案　　平成 25 年度 事業報告承認の件
第 2 号議案　　平成 25 年度 収支決算(貸借対照表、正味財産増減計算書及び財産目録)承認の件
第 3 号議案　　規程の制定及び改定の件
第 4 号議案　　定時評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等の件
報告第 1 号　　理事の辞任について
報告第 2 号　　任期満了等に伴う理事の候補者について
報告第 3 号　　評議員の辞任について
報告第 4 号　　評議員の候補者について
報告第 5 号　　テクノビジネスゲートの活用について
報告第 6 号　　浜松市外郭団体コミットメントについて

②平成 26 年度 第 2 回理事会

議決方法　　書面決議
決議があったものとみなされた日　　平成 26 年 7 月 3 日（木）

審議事項

第 1 号議案　　理事長 1 名選定の件
第 2 号議案　　専務理事 1 名選定の件
第 3 号議案　　理事事務局長 1 名選定の件

③平成 26 年度 第 3 回理事会

開催日時　　平成 26 年 10 月 20 日（月）15:00～
開催場所　　浜松地域イノベーション推進機構　8 階セミナー室
出 席 者　　10 名

審議事項

第 1 号議案　　平成 26 年度 収支補正予算(案)承認の件
第 2 号議案　　借入限度枠設定の件
報告第 1 号　　職務執行の状況
報告第 2 号　　評議員の候補者について

④平成 26 年度 第 4 回理事会

開催日時　　平成 27 年 2 月 19 日（木）10:00～
開催場所　　浜松地域イノベーション推進機構　8 階セミナー室
出 席 者　　11 名

審議事項

第 1 号議案　　平成 27 年度 事業計画承認の件
第 2 号議案　　旧半田山事務所寄附の件

第 3 号議案　　平成 27 年度 収支予算承認の件
第 4 号議案　　定款一部変更の件
第 5 号議案　　規程の制定及び改定の件
報告第 1 号　　浜松・東三河ライフフォトニクスイノベーションの文部科学省中間評価の件
報告第 2 号　　高度技術振興基金、地域産業活性化基金返還の件
報告第 3 号　　理事辞任の件
報告第 4 号　　評議員辞任の件

(2) 評議員会

①平成 26 年度 第 1 回評議員会

開催日時　平成 26 年 6 月 26 日（木）10：00～
開催場所　浜松地域イノベーション推進機構　8 階セミナー室
出 席 者　7 名（第 2 号議案より 8 名）

審議事項

報告第 1 号　評議員の辞任について
第 1 号議案　評議員選任の件
報告第 2 号　平成 25 年度 事業報告について
第 2 号議案　平成 25 年度 収支決算(貸借対照表、正味財産増減計算書及び財産目録)について
報告第 3 号　理事の辞任について
第 3 号議案　任期満了等に伴う理事選任の件

②平成 26 年度 第 2 回評議員会

開催日時　平成 26 年 10 月 23 日（木）15：00～
開催場所　浜松地域イノベーション推進機構　8 階セミナー室
出 席 者　7 名（第 2 号議案より 8 名）

審議事項

第 1 号議案　評議員選任の件
第 2 号議案　平成 26 年度 収支補正予算(案)承認の件
第 3 号議案　借入限度枠設定の件
報告第 1 号　職務執行の状況

③平成 26 年度 第 3 回評議員会

開催日時　平成 27 年 2 月 25 日（水）15：00～
開催場所　浜松地域イノベーション推進機構　8 階セミナー室
出 席 者　8 名

審議事項

第 1 号議案　定款一部変更の件
第 2 号議案　役員の報酬等に関する規程改定の件
第 3 号議案　平成 27 年度 事業計画承認の件
報告第 1 号　旧半田山事務所寄附の件
第 4 号議案　平成 27 年度 収支予算承認の件
報告第 2 号　浜松・東三河ライフフォトニクスイノベーションの文部科学省中間評価の件
報告第 3 号　高度技術振興基金、地域産業活性化基金返還の件
報告第 4 号　理事辞任の件
報告第 5 号　評議員辞任について

4　研究会推進事業（企業連携交流促進事業）

(1) 異業種交流グループ

平成 27 年 3 月 31 日

名　　称	代　表　者	発足年度	現会員数
ア. ＴＭプラザはままつ	会長　神谷　文吾 神谷理研 ㈱ 代表取締役社長	昭和 62 年	33 社
イ. 浜松技術交流プラザ 82	代表幹事　山本　純夫 ㈱ テクニカルサポート 代表取締役社長	昭和 57 年	17 社
ウ. 都田アソシエイツ	代表幹事　服部　貴應 ㈱ エヌエスティー 代表取締役社長	平成 5 年	56 社

(2) 成長分野研究会

平成 27 年 3 月 31 日

名　　称	代　表　者	発足年度	現会員数
ア. ＶＢ・ＶＣ研究委員会	委員長　川島　順三 浜松堀留 ㈱ 代表取締役社長	昭和 58 年	17 社
イ. ソフトウェア産業振興研究委員会	委員長　山内　致雄 ㈱ 電興社 代表取締役社長	昭和 59 年	28 社
ウ. 先端精密技術研究会	会長　吉田　勝治 はままつ医工連携拠点 拠点長	平成 10 年	43 社 22 名
エ. 次世代設計・製造構造研究会	会長　戸上　常司 ヤマハ発動機 ㈱ 元顧問	平成 19 年	22 社 3 校

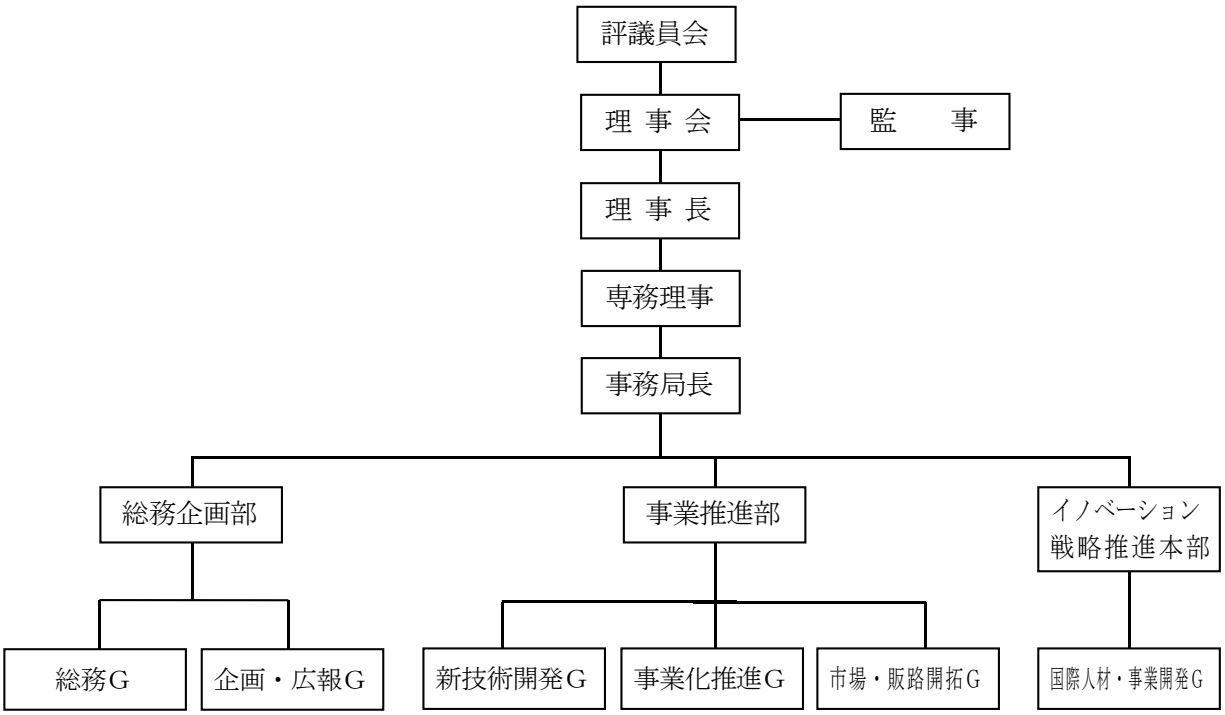
5　賛助会員

平成 27 年 3 月 31 日

1	日星電気 ㈱	代表取締役会長	河野　勝男	浜松市西区大久保町 1509
2	㈱ 呉竹荘	代表取締役社長	山下　智司	浜松市中区東伊場 1-1-26
3	グランドホテル浜松	総支配人	繁本　武雄	浜松市中区東伊場 1-3-1
4	㈳ テクノランド細江	理事長	山本　純夫	浜松市北区細江町中川 7000-1
5	㈱ 平安コーポレーション	代表取締役	鈴木　通友	浜松市北区新都田 1-5-2
6	パルステック工業 ㈱	代表取締役社長	鈴木　幸博	浜松市北区細江町中川 7000-35
7	㈱ 高井製作所	代表取締役	高井　理恵	浜松市東区有玉南町 1168
8	エンシュウ ㈱	代表取締役社長	土屋　隆史	浜松市南区高塚町 4888
9	㈱ エヌエスティー	代表取締役社長	服部　貴應	浜松市北区新都田 4-3-1
10	中野純公認会計士事務所	所長	中野　　純	磐田市今之浦 4－17－10
11	㈱ 遠鉄トラベル	取締役社長	広瀬　光彦	浜松市中区旭町 12－1
12	㈱ ユニバンス	代表取締役社長	村松　道泰	湖西市鷲津 2418
13	やまと興業 ㈱	代表取締役社長	小杉　昌弘	浜松市浜北区横須賀 1136
14	㈱ 電興社	代表取締役社長	山内　致雄	浜松市南区卸本町 98
15	ローランド ディー. ジー. ㈱	取締役社長	冨岡　昌弘	浜松市北区新都田 1-6-4
16	東海電子印刷 ㈱	代表取締役社長	伊藤　　均	浜松市南区若林町 888-122

6　事務局体制　　平成 27 年 3 月 31 日

〔組　織　図〕



評議員	11
理事	12
監事	2

総務企画部	
部長	1
グループ長	2
主任	1
嘱託職員	3
派遣職員	1

事業推進部	
部長	1
グループ長	3
コーディネーター	10
主幹	2
主任	4
職員	1
嘱託職員	1

イノベーション戦略推進本部	
本部長	1
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾃﾞｨﾚｸﾀｰ	1
事務長	1
事務次長	1
アドバイザー	1
コーディネーター	14
事務補助員	3

公益財団法人
浜松地域イノベーション推進機構
Hamamatsu Agency for Innovation